

放送人の会

No.68
2015.1.30

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel & fax 03-3221-0019 Mail info@hosojin.com

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉 編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、逸見京子、前川英樹 (HP担当)、松尾羊一 事務局 佐藤真美子、須斎恵美子

「鰯の頭も信心から」

「言論の自由をめぐる」

郷土作家今野勉

小さい頃から「いわしのあたましんじんから」という言葉を聞かされてきた。はじめは意味がわからなかった。私は北海道の炭鉱で育った。時々、おかしなことを言ったりおかしな振舞をする人がいた。気がおかしくなったわけではなく、大抵、新興宗教のたぐいに心をとられた人たちだ。それを見て、まわりの大人同志のかわす言葉が「いわしのあたましんじんから」であつた。

何度不幸や不運に見舞われる人が、なぜ自分だけこんな目に遭わなければならぬのかと考える。あるとき何かの啓示を受けて、するべきものを発見しそれに心身をゆだねて生きはじめた。はたから見ればそれは自明のことではあっても、自分にとってはこれ以上ありがたいものはないと見えている。

そんな時に、はたの人間が「鰯の頭も信心から」と言葉を交わす。鰯の頭のようなつまらない物でも信心してしまえばこれ以上有難いものはないようになる、という意味であることはずっと後になって知った。

この俚語には、鰯の頭を信心する人を揶揄する気持ちとその人を認めてやろうとするやさしさが同居している。鰯の頭を信心

放送人の会会長・今野 勉

する人は大抵貧しい人である。貧しいがゆえに無教育でそれゆえに迷妄の人である。

では、その人の迷妄は、迷妄なるがゆえにあきられ、さげすまれるべきなのか。それによつてこそその人は本当の人間性を取り戻すことができるのか。それと今その人にとつてその迷妄こそが真実なのでありそれによつて救われているのなら何びともそれに異を唱えるべきではない、という事なのか。

不寛容の時代に

「ご推察のように、私は、バリの政治週刊誌「ジャルリー・エブド」事件について考へつつあることを書いています。つまりは「表現の自由、言論の自由」の、その「自由」とは何かという問題である。

1988年に小説「悪魔の詩」でイスラム教の預言者ムハンマドを侮辱したとしてイランの最高指導者に「死刑」を宣告された作家サルマン・ラシュディは、今回の事件直後「他の思想と同様、宗教も批判や風刺、さげすみの対象となる」と断言した。

イギリスの時事風刺漫画家マーチン・ローソンもBBCのテレビで「自由な社会において『あきけり』『中傷』『侮辱』する

ことこそ、我々、風刺漫画家の仕事だ」と主張した。

テロ事件後の最初の号の表紙に、「ジャルリー・エブド社」はふたたびムハンマドの風刺画を描き、「すべては許される」という言葉を掲げた。「表現の自由には上限はない」という考えの表明である。

その表明には、宗教の権威主義的支配から、理性の政治的分離を長い戦いの末に勝ちとつたヨーロッパの市民の誇りと自信が満ちあふれている。「表現の自由を守れ、暴力反対」という300万人を超えるヨーロッパ各地のデモは、その表明が支持されていることの証しである。

とはいえ、その参加者の4割を超える市民はムハンマドを侮辱する風刺画には反対であるという報道もある。ドイツではナチスドイツを礼賛することは言論の自由に入っていない。他民族を一方的に中傷し侮辱するヘイトスピーチは国際的にも認められていない。これは表現の自由にも上限があるということなのか。

「そんなことはあたりまえではないか」と教えてくれたのが、実は「鰯の頭も信心から」という、郷土作家今野勉が同居する俚語であったことを、私はあらためて思い知らされた。

「表現の自由には上限はない」と断言することでも私たちが得るものは大きい。ただ、そのスローガンが不寛容の時代をよびこむことのないよう、私は「鰯の頭も……」と念じていようと思っている。

新春所感

あけまして

おめでとつていいます

市川博子

昨年はアラスカと美ヶ原でそれぞれ違った山なみの魅力に触れました。アラスカのデナリ国立公園の奥地では9月2日というのに雪が降り、間近に迫るマッキンレーとアラスカ山脈の威容に圧倒され、併せて雪の斜面を駆け上るカリブーや、子連れで移動するムースの群れなど野生の姿に興味が沸きました。

美ヶ原の頂上からは、遠景ながら360度の名山のパノラマ。南北、中央アルプスとはより、遠くは富士山や白根山まで視野に入り、生命の洗濯をした気分です。今年も皆さまに幸多きこと、お祈りもうしあげます。

嘘つかん 誓いて一氣に寒の水

萩野康人

放送人新年句会の兼題に「寒の水」があり、僕は表題の句を最句とした。

昨年は、交響曲第一番HIEROSHIMA、STAP細胞に始まり、吉田証言（韓国従軍慰安婦）、吉田調書（慰安所原形暴露）、果敢議員政務活動費、女性放送記者のバツグひったくれ事件……と、誤報、代作、捏造、改竄など奇々怪々なトピックスが相次

ぎ、昨夏刊行の小説『後妻業』（黒川博行著）そつくりの婚活殺人容疑者起訴が止め狂言となった。

他人事ではない。テレビ局に在籍時の僕も清廉潔白だったとは胸を張り辛い。番組がプレゼンテーション通りに高視聴率を維持できなくてスポンサーが苦い顔をした時「騙す方も悪いが騙される方も悪い」と小声で囁く営業担当の先輩がいた。

近頃朝日新聞の評判が好くないが、朝刊の連載小説『マイストーリー』（林真理子）を僕は愛読している。昨5月に始まりこの元日に239回を重ねた。自費出版業界が舞台の人間模様は面白い。このところ、地方都市で斜陽の映画館経営に情熱をかけた館主の未亡人が「私の物語」を描く意図から、昔映画青年・今放送人OBの僕は我が事のように感情移入する。出版社とテレビ局連携での関わり記録ドラマ化は小説として佳境に入るが、内容は視聴率が次第に下降してゆく展開だ。実在人物を彷彿させるテレビ・プロデューサーや出版担当者の四苦八苦に共感できる。

僕が興味を抱いたのはその辺りだけではない。私の物語を書くのが「私」ではなく所謂ゴーストライターだからだ。売れる本にするため、プロの作家や文筆家が添削だけでなく当人と周辺を取材して丸ごと執筆するのだ。代作が珍しくないのを知らないわけではないが、新聞雑誌の随筆を読んだり書店を覗いては、芸能人やアスリートや実業家などの著者作品が何と色褪せて

見えてきたことが！

30年ほど前、縁ある羽信子さんの『とろんと半生記』と『越路吹雪さんの』その愛と歌と死』と題する自伝（朝日新聞社刊）を読んだ時（聞き書き・江森陽子と藤の執筆が明らかでも、受けた感銘に曇りはなかった）。

20年ほど前のTV界は（やらせ事件頻りに公共放送のNHKも例外ではなく、読売テレビの制作局長だった僕も、担当番組名と共に半年謹慎の処分を食らった）。

「現実の取材をもとに再現しました」とおことわりテロップを出しておけば、犯罪者のような扱いは受けなかったのだろうか……。

老いの繰りごと

各務孝

昨年11月初旬20数年ぶりに、山陰地方、萩、津和野、松江などへ旅をした。

世事万端に疎くなった身は今年の大河ドラマが萩を舞台にした『花燃ゆ』であることとを露知らず、萩の武家屋敷の所々に『花燃ゆ』のポスターが張り出されているのを怪訝な面持ちで見やうとしたものである。萩を訪れたのは3度目だが、武家屋敷の白壁も全国最古に属すると称せられる萩藩の御用商人菊谷家住宅の延々と続く十畳のなまこ壁も以前と全く、変わることなく保存されていた。それは、萩だけに限らない。

森陽子の生家や西岡の旧居が保存されている津和野にしても、小泉八雲が「知られ

ざる日本の面影」を執筆したと言われる松江の武家屋敷跡にしても同様であった。土地の人によれば、この地方一帯は軍需工場もなかったため、戦火を浴びる悲劇を免れたとのことだが、そのお蔭で我々は今日、江戸末期から明治時代にかけての日本の原風景の一端を味合う幸を得たとも言えよう。

津和野から松江には日本海沿岸線に沿って走る山陰本線を利用したが、意外に展開する波打ち際の風景も日頃、新鮮だっ利用していい身には極めて、新鮮だった。東海道新幹線の沿線に見る不様な広告塔に代わり、海岸沿いに展開する風力発電用の風車が舞う姿にも化石燃料や原発に代わる代替エネルギーとしての期待を抱かされ心地良かった。勿論、こうした感慨も所詮、老人の懐古趣味と言われても異存はない。しかし、今や、かかる感傷にひたっている場合では無いのかもしれない。それは、昨今、喧伝されている地方消滅、東京一極集中が招く人口急減予測である。それによれば、全国896の自治体が消滅都市に挙げられているが、萩、津和野、松江などももとより、これに該当する。日本経済の発展を最大の課題としてきた我が国においては、東京一極集中もやむを得ないとされ、その付けを地方の市町村が担わされ、過疎学童離村、限界集落などと呼ばれる変なやつも、その事態には変わりようなかった。その打開策もその時々と、立場、立場で各人各様に論じられてきたのであろうが、所詮は選挙自当の箱もの優先、お金丸投げが

主流だったといわれている。現在の安倍内閣では昨年、国務大臣に地方創生の専任業務を設け、実力者を当てているが、地方創生という、いかにも、お役所丸出しの上から目線を感じさせる省庁にどこまで、地方の市町村の声を汲み上げることが出来るのか疑わしい。

超後期高齢者の身で今更、何を言っても所詮、犬の遠吠えに過ぎないが、願わくば、江戸時代から続いた日本の原風景が少しでも、損なわれないことを切望するものである。

素晴らしい日本の交通マナー

加藤浩紀

歳をとると何事にも「昔はよかった」と言いたくなるが、実際は今のほうがよい場合が少なくない。その一つに、日本の交通マナーがとて良くなったと私は感じている。

1966年にNHK総合テレビでスタートした朝の情報番組『こんにちは奥さん』で、私は「運転手に物申す」という企画を担当した。鈴木健二アナウンサーと五代利矢子さんの司会のもと、スタジオに招いた大勢の主婦がタクシーやトラックの運転手、それに増え始めたマイカー族に対して、交通マナーを守り乱暴な運転をしないよう激しく訴える番組だった。歩行者としての主婦が家族や自分が交通事故に逢うことを真

剣に心配するほど、当時の交通マナーは悪かったのである。

その頃と較べると今は隔世の感がある。クラクションを鳴らして他車や歩行者を脅す運転手をほとんど見かけない。道路を歩いているにも「歩行者優先です。どうぞ」とサインを送ってくれる運転手も多い。運転手同士で譲り合う姿も普通に見られる。もともと、危険ドラッグを吸った運転手による困った事件も起こってはいるが、全体としては、日本の交通マナーが素晴らしい良くなったことは間違いないと思う。日本を訪れる外国人観光客にぜひ見てほしい日本人の良き伝統だ。

ここで、私の体験を一つ紹介しよう。

先日、片側一車線の狭い道路を運転していたとき、私の車の前を腰の曲がったお婆さんが急に横断し始めた。横断歩道でない場所だが、私は徐行していたので、何の危険もなく車を止めてお婆さんの行動を眺めた。驚いたのは、そのお婆さんの歩くスピードである。時速10メートル？一歩足を踏み出すのに十秒はかかる。対向車線に軽トラックがきたが、すぐに停車しお婆さんが道路を渡るのを辛抱強く待っていた。すると、そこに買い物をさせた中年の女性が小走りで登場し、お婆さんを抱えるようにエスコートし始めた。停車した車に見向きもせず道路の真ん中を一步一步進むお婆さんの姿を、見ていられなかったのだろう。

やがて、道路を渡り終えたお婆さんは、振り向きもせず何事もなかったように建物の蔭に消えていった。お婆さんの助けに入った女性は、私と軽トラックの運転手に軽く会釈してニッコリ。私も女性に会釈を返すとともに、対向車線の軽トラックの運転手に目であいさつしてから、ゆっくりと車を発進させた。

何と言ったこともない、わずか二三分の出来事だったが、誰も焦らない、時が止まったような不思議な感覚が、私の記憶に残った。

幸神社のこと

北村 充史

事情あって、生まれて初めて京都市内で年越しをした。

正月らしい用意は何もできず、除夜の鐘も、寒中窓を閉め切った古マンションでは聞こえない。元日の朝、すばらしい青空なのでいい日だと喜んでいたら、午後雪になり、真っ白にもなった。二日もおなじ天候で、三日の朝になると、市内22センチメートルの積雪は61年ぶりだとテレビニュースがいう。

その雪の前日から暮れのことだが、買い物に出たついでに、平安京最古の創建とも伝わる神社に行ってきた。「幸神社」と書いて「さいのかみのやしる」と読む。河原町

今出川交差点の西、「大原みち」とある古い石碑（寺町通を北に50メートルほど上がったあたりに「幸神社」という石碑があり、それを左に入る（西入る）。うっかり通り過ぎそうな住宅街のあいだに、敷地二百坪もない小さな社がある。大人が両手を広げてちやうどぐらいの社と、右奥に「石の神様」と書いたまると石が二つあるだけ。

「出雲路幸神社」と彫った石碑がある。訪ねる人もない。

この神社で、出雲阿国が巫女をしていたというのだ。

出雲の国からきたお国という女性が入びとの前に姿を現したのは慶長5年（1600）、このときお国は14歳、出雲の国ややこ踊りを貴族の屋敷で披露したという。直後に関ヶ原の合戦があった年だ。17歳のとき北野神社で「歌舞伎踊」を披露して一躍スターになり、四条河原の興行につなが（渡辺邦夫氏の著書による）。

幸神社の巫女をしながら歌舞伎踊りをつとめたというのは伝説だが、この小さな社から十代のスターが四条河原に通ったと想像するのも、楽しい。当時の興行は、神社の勧進（寄付集め）だったから、巫女だということにしたのかも知れない。

幸神社の石碑には、「皇城鬼門除」の文字もあるから、天皇のいる御所の鬼門除として重要な役割をもっていたのかも知れない。この小さな神社にも雪が積もったのだから、その情景は見えていない。

年末の衆議院選挙は、安倍政権の戦略が的中して信任投票の色合いが濃く、ふたを開けてみれば安倍政権の圧勝だった。寒波に襲われたためか投票率は52%に沈み、前回の59%に続いて戦後最低を記録してしまった。

懸念すべきは、若者の投票率が際立って低いことだ。前回の20歳台の投票率は37・89%と驚くほど低かったが、今回も低かったようだ。

一方で前回の60歳台は投票率74・93%。20歳台の2倍の投票率を記録し、しっかりと国政選挙に影響力を行使している。

数の多い高齢者の声は大きく響き、政治家の顔が高齢者の方を向くのは当然で、ただでさえ人数の少ない若者の声はなかなか世の中へ届きにくい。傍聴者のままでいると、若者が抱える問題は置き去りにされかねない。

ちなみに、民主主義国家として成熟しているスウェーデンでは、若者が政治参加して投票率が高く、世界の注目を集めている。ネットによれば前回2010年の総選挙において、18歳〜29歳の投票率は79%におよび、全世代投票率84・6%と比べて大差ない。

このような現象をどう考えればいいのか。日本の若者世代は政治に参加し、社会を良くしていくことを半ば諦めてしまっているのだろうか。それともひょっとすると、日本の社会が若者をいざばい使いつけて、未来を奪っていることに對して、若者が政治を見放し、この国をフアッショに向かわせているのだろうか。なにしろ20代の3分の1が非正規という不安定な立場に置かれ、失業者を加えると4割近い若者が不安定就業の状態にある。仕事は安定せず、結婚もままならない。親世代の借金まで抱えては礼儀作法や節度ある行動に心を配る余裕などなく、底辺からとげとげしく荒んだ世相になってしまふ。

大人たちが、若者の雇用や不公平感などを本気で心配しないと、この国は本当に危ない。

自らの場所を道を切り開こうとする若者はどの分野でも貴重な存在だ。そんな若者を育て、活躍できる場を用意できるか。社会の側もまた問われる。

折しも、日本では選挙年齢が20歳以上から「18歳以上」に引き下げられそうである。自民、公明、民主など7党は、この月末に始まる通常国会で公選法改正をめざすという。成立すれば、国政では2016年の参院選から実施される。世代間の格差を

なくすためにも引き下げは、是非実現してほしい。

戦後70年、私たちは時代の転換点にいる。第3次政権では、日本の政治の姿が大変変わりする可能性がある。原発、自衛、憲法、女性の活躍、歴史認識……。自分にとって大切な課題が議論の節目を迎えたら、賛否の声をはつきり上げることが欠かせなくなった。この時代を生き抜くには、改めて国会と政治を厳しく監視する主権者になるほかない。

ビケティとメディア

隈部紀生

世界で二冊の本が注目されている。フランスの経済学者トマ・ビケティが書いた「21世紀の資本」だ。過去300年間の各国の納税データなどを調べて資本や所得の変遷を分析し今後経済・社会的な不平等は拡大すると予測し、世界的に資産への累進課税を強化し、大企業の租税回避を抑制することを提議している。

一昨年フランスで出版されて40万部売れた。去年アメリカで英訳が出て、著者な経済学者などが絶賛し、アメリカのハードカバーで22週連続ベストセラー第1位になり、50万部売れた。

日本でも翻訳書が出る前から、新聞や雑誌で紹介記事が続々登場し、去年12月に翻訳が出版されて以来、今書店で平積みにな

っている。正月になってからも朝日新聞が著者ビケティのインタビューを載せ、Eテレでは「バリバ熟教室」でビケティの講義そのものが6週間にわたって放送されている。

なぜ700ページもある硬派の本がこれほど注目されるのか。先の「オキユパイ・ウォールストリート」の運動で見られたように世界各地で経済的社会的格差が拡大している実感が広がっていることが大きな背景にある。またビケティが単に人道的、倫理的に主張するのではなくデータに基づいて推論していることや、バルザックなど文学作品も交えて生き生きとやさしく説明するストーリー・テラーとしての才能も大きい。

メディアの観点からみるとビケティ自身IT技術を駆使して情報を処理し、インターネットでも関連の情報を提供しているし、読者の方も欧米のメディアが伝える反響などをいち早く知って、インターネット通販で外国書を取り寄せて読む人も多い。グローバル化の進展で昔ではとても考えられないスピードで情報が流通し、反響もいち早くインターネットで伝えられて論戦が展開される。

ビケティは昔ながらのメディアや講義にも力を入れ、1月下旬には来日して、講演やパネル・ディスカッションも行う。

そんな中で日本語の翻訳書が果たしてどこまで売れるのか注目される。日本人は一般に問題を突き詰めて考えるのがあまり得意

とは言えないだけに、新聞、放送、雑誌の紹介記事だけで満足してしまうのか、700ページを読みこなして議論を深められるのか気になるのである。

教育でのディベートの大切さが言われて久しいが、こんなところにも関係してくるのではないだろうか。

さまざまな危機が氾濫している現代社会は速いテンポで動き、すぐに対応策が求められるだけに気になる新年ではあった。

「ロシア再発見の旅路」

リトアニア・ビリニウスにて

小池勝次郎

2015年新春、厳冬のバルト3国リトアニアの首都ビリニウスを、ジャーナリスト池上彰氏と訪ねている。旅の目的は、テレビ企画「池上彰が見た！ロシアの今」ソ連崩壊25年（仮題）の第2次撮影取材である。池上氏とは昨年夏、ハバロフスク・ウラジオストクのシベリア地域を第1次取材で回った。

この旅先で池上氏は、朝日新聞の「ミラム掲載拒否問題」に巻き込まれマスコミの渦中の人だった。ひっきりなしの携帯電話に苦慮しつつ毅然と対応していた。表現の自由・報道の自由の尊さについて語り、ジャーナリストとしての姿勢を貫くべきだと話した合った思い出の旅である。

1月12日雪が激しく舞う夕刻。リトアニア・テレビ塔前の広場には、コーンと花

束を手にした多くの市民が集まり、神父が民族讃歌の詩を朗読するなか名前を記した慰霊碑に祈りを捧げている。今から24年前の1991年1月13日、ソ連邦からの独立と自由を求めて闘う人々が、このテレビ塔を死守しようと侵襲してきた治安部隊に立ち向かい多くの犠牲者を出した「血の日曜日」の鎮魂祭である。

当時日本テレビソ連横断特別取材班は、西側メディアとして唯一この地でその生々しい状況を撮影し逐一世界中に報道した。リトアニアは、1年後に独立を果たすことができた。そしてソ連邦という巨大共産主義帝国は、70有余年で瓦解した。リトアニア独立記念式典に招待された我々は、リトアニア最高会議内に立てこもり抵抗を続けたランスベルギス最高会議議長から「ジャーナリストの武器である言葉とテレビカメラで独立達成に貢献した」として特別表彰を受けた。

リトアニアは今年1月1日、欧州単一通貨ユーロを導入し旧通貨リタスを廃止、名実ともに欧州連合（EU）19カ国の一員となった。今回、そのランスベルギス氏（82歳）を再び訪ねて話を聞いた。

「24年前のあの運命の日、あなた達日本テレビの撮影班が身近で取材していたことをよく覚えています。クレムリンのゴルバチョフ大統領に電話しましたが無視されました。しかし実は、そのあと電話したエリツイン氏（その後ロシア連邦共和国大統領就

任）が侵攻を食い止める工作をしてくれたのです」と、独立を果たすキッカケとなった衝撃的な歴史秘話を吐露してくれた。

そして、「リトアニアは、自由で好きなことができる民主主義の国となりました。しかし我が国は小国です。NATOやEUに加盟しましたが、ロシアの脅威はいつも感じています」と、今の実感を語ってくれた。

東西冷戦の終結、ソ連邦崩壊から四半世紀の時が過ぎようとしている。しかし、ロシアを取り巻く情勢は再び激動している。昨年春のロシアによるクリミアへの侵襲編入、ウクライナ東部の政府軍と親ロシア派武装勢力との紛争、それらに対する欧米諸国によるロシアへの経済制裁発動など、地政学的な緊張が深まっている。そしてロシアは、原油価格の急落と通貨ルーブル暴落に見舞われ、経済的な苦境にも直面している。

池上彰氏とのロシア再発見の旅は続く。これからモスクワに向かう。そして2月中旬には、いまだ緊張が続くウクライナでの第3次取材に入る。

これらの旅路は、シベリア抑留という昭和を生きた父親の軌跡をたどりつつ日ソの歴史の深層を見極めたいという個人的な思いで企画し取材放送した「感動そして発見！ソ連横断4万キロ」（3部作：1990～92年）の、25年目の検証編を制作することである。

“あのソ連邦崩壊とは、何だったのか？”、そして北方領土・平和条約問題は、どう進展するだろうか？日露のエネルギー等経済協力とは？等々、今一度、日本とロシアに横たわる問題を見つめてみたい。

今年は、安倍首相と親密なプーチン大統領が来日する予定である。大きな動きを期待したい。

（このテレビ企画は、3月27日（金）17時～21時、BS日テレにて放送予定）

新年おめでとーございませう

坂本良江

私が住むコレクティブハウスかんかん森には昨年2人の赤ちゃんが生まれました。ママたちはみな働く女性です。テレビマンユニオンでも40代の女性ディレクターに第一子誕生のニュース。子どもが生める環境、子どもが育てられる職場の雰囲気、暗い世相の中で少しだけほっとした気持ちになります。昨年11月仲間たちと一緒にコレクティブハウスの本を出しました。年末NHK「課外授業さくら先輩は枝裕和」のプロデュースをしました。久しぶりに枝さんと一緒に仕事をしました。

おめでとーございませう

重延 浩

自分が埋没しそうになる現代。でも自分の価値について考える時代だと思います。「普通と言われる人生を送る人間なんて誰ひとりいない。いたらお目にかかりた

いものだ」—アルベルト・アインシュタイン。人は皆それぞれの思いを生きているという彼の相対的人間肯定論です。それは「人は神の前において皆同等に賢く、同等に愚かである」という名言を生みます。そして彼の平和主義につながります。「たとえ国家が要求したとしても自分自身の良心に反することは決してしてはならない」。愚かでない賢い生き方を教えられる。

新年偶感

鈴木典之

昨秋、屈指する気分であった10月、息子に誘われて熊野詣でに出かけた。

熊野伝説、殊に名高い古道歩きを試練に永年憧れていたものの、齢半寿を迎え共に足腰の衰えを嘆く夫婦には、決行に不安もあった。しかし熊野は現世の冥界、難行の末に三山詣でを果たせば蘇り（黄泉がえり）の霊験があると信じた先人たちの信仰に従うことにした。

山中丸2泊3日の強行軍。にわか勉強をもとに欲張って見聞もする行程なので、歩いたのは本宮大社までの中辺路の一部。那智大社への大門坂登り、それに舟下りに向かう川の参道近辺に過ぎない。が、大型台風（過直後の熊野は三天社の参詣客もまばら、まして古道歩きは殆ど無人の幽界に分け入る趣、静寂と霊気に包み込まれて体の芯まで浄化される気がした。諸王子を巡る

故事、南方熊楠ゆかりの古蹟と大樹群、名物目張り、熊なり驚きも多岐に亘る。中でも億俵は豊玉大社が「御船祭」の当日だったこと。熊野川の神幸船渡御と諸手船の勇壮な競漕が見物できた上に、宵は社殿近くの河原に設けられた御旅所での厳かな御遷移の祭儀に同席を許された。

春にテレビで初中継された伊勢神宮の遷宮式と同じ古式の秘儀が、暗闇の中がかり火の明かりを頼りに進められる場に居合わせ心地は夢幻といつていい。稀有な体験だった。古道の険路に氣息えんえんだった妻が、帰宅後に「腰痛が消えたみたい」と叫んだのは、豊玉の神の賜なのか。

小生には劇的な効果はないが、以来なんとなくモノゴトがはつきり見えるようになった気がする。己の本性も限界も。そして気付いたのは、80歳は人生上限の節目ということ。

同年の親友が、「老境に至ると引き算派と足し算派がはつきりする」という。余命を想定して今の自分の在り方を引き算で律することができると、余命は意識せずに明日を望みに過して行くかの違いだぞうだ。

「自分は引き算派だ」という彼は、享年を85と定めて、もう2年も前から猛烈な集金力で「終い支度」に取り組んでいる。そして、既に名を成した斯界以外で、周囲の誰もが驚いた見事な研究書を昨秋本格出版し、今また別のテーマで2冊目を目指して

執筆に入っている。「ライフワークとして3冊は仕上げる」と豪語する彼には最近オーラが漂っていて、その威圧感に小生はたじたじである。「お前は足し算派だから」と彼に類別された小生は、この新年をどう処したらいいかと、熊野三山のたくさんさんの賽銭箱に投げ込んできた小銭のご利益が、夢にでも託宣となって現れるのを秘かに心待ちしている。

あけましておめでと〜ござい
ます

TBS「親父の背中」、テレビ朝「坂道の家」を見てくださった方々、スタッフ・キャストの皆さん、本当にありがとうございます。

「寒の水飲んでどうする明日からです。が、結構、筋トレ、勉強に励み、余命余響きの鐘の音に耳を澄まして大傑作を思っています。

今年もよろしくお願いします。

六本木の星空

外崎宏司

私は1945年暮れから50年間六本木に住んだ。戦争が終わった直後の六本木は、空襲の被害も少なく、所々に穴のような焼け跡が残っているものの、おおよそ復興が済んだようであった。それというのも旧陸軍の連隊が近くにあり、戦後早くから袖口に馬の記章を付けた進駐軍の第1騎兵師団が入替わりに駐屯していたからであつた。

たようだ。夜は当時の東京のどこでもがそうであったように、一面の星空だった。

六本木の街は焼け残った端正な街路樹があり、人通りの少ない住宅地であった。人通りの少ない住宅地の様子が変わったのは1954年、六本木交差点に近い俳優座の稽古場に隣接して『俳優座劇場』が開場してからである。東京での新劇専門の劇場は空襲で焼失した『築地小劇場』以来で、客席が400というささやかなものであった。たとえ小さくても戦後の新劇への渴望を満たす役目としては十分なこの劇場は多くの観客を集めた。劇場の周辺には翻訳劇に出演する俳優と、その見習いの髪を金色に染めた俳優たちがあふれ出し、出演するが近い飲食店のウェイトラースやバーテンが金髪一色になった。同時に劇場が終わった後の近辺の店には同じような風体の男女が客として入り、ささやかな店は繁盛することになった。特に芝居の終了時間のために、夜遅くの繁盛を見たのは当然だった。やがて周辺には横浜から移転してきた中華料理の大きな店が進出して、ささやかな店どころではない繁栄を見せ、その他の店と共に、「食についての新しい東京名所」となっていく。

劇場よりも更に大きな影響はテレビから来た。1959年に開局した日本教育テレビはすぐに略称をNETと変更し、教育番組以外の番組に盛大に乗り出した。局に集まる人々も劇場とは桁違いに増えた。この時期、各局ともそうだったが出来たばかり

のVTRは数が少なく、ドラマの収録には深夜にわたることが少なくなかった。そのうえ都心と新宿や渋谷との等距離感もあって局を巡って人の出入りは大きく変わり、周辺の店の深夜営業慣れもあいつて六本木は深夜まで店の明かりが灯っている新しい盛り場になった。

私はほぼ毎日この六本木の街を通っていた。バラエティー番組のプロデューサーであり、ドラマ番組のADであり、『夜のこたま』の記者兼構成者でもあり、やがて始まる木島さんの『モーニングショー』初日のディレクターでもあった。六本木の街は暗闇を秘めて明るく、オリンピックを目指して昼も夜も轟音と共に工事が続いていた。それでもこの時期、立ち止まれば空一面の星は見えていた。昨年暮れ、今でも星が見えるかと六本木を訪ね、交差点に立ち止まったが、巨大な高層ビルに阻まれ星は見えなかった。

謹賀新年

中崎清栄

お元気でいらつしやいますか？北陸新幹線も3月に開通しますので、東京が近くなります。金沢へもいらしてください。

新年に思う

長沼士朗

昨年の12月、NHKの塩田純さんからメールが届き、14日の深夜、11月に亡くなった俳優の菅原文太さんを偲んで番組を放

送するという連絡をもらった。

2年前に放送した「日本人は何を考えてきたのか」の第2回「自由民権運動、東北で始まる」という番組で、民衆思想史研究家の色川大吉さんと憲法学者の樋口陽一さんが出演し、リポーターを俳優の菅原文太さんがつとめていた。

それによれば、東北の自由民権運動は、福島県浪江町出身の民権運動家・菊宿伸衛によつて始められたという。この浪江町は東京電力の原発事故の被害地でもあった。

さらに明治22年に明治憲法が公布されるが、それまでに日本各地ではいくつかの憲法草案が作られ、その中でも最も優れたものは、四国高知出身の植木枝盛が発表した憲法草案であったという。

この草案には、①地方の自治、②言論出版の自由、③抵抗権の自由などが定められており、この三つが保障されていけば権力の独走は許されないという考え方が示されていた。

時折外套の裾をなびかせながら東北の農村を歩く菅原文太さんの姿が印象的であったが、番組の終わり近く、菅原さんは、平成23年3月に東北地方を襲った東日本大震災の被災地の一つ、岩手県陸前高田市を訪ねた。

震災の日、ここでも10メートルを超える津波が押し寄せ、市の犠牲者は1800人ほどに上り、全壊家屋は3800戸を数えた。

陸前高田市被災者支援室の話では、住宅

再建のための土地造成なども含めて、被災地の復旧作業は、平成30年ごろまでかかるだろうということであった。

終わりに工場も店も津波に流されてしまった醤油屋の跡取りの青年が、菅原さんに次のようなことを語った。

「今日日本は、食料も自分たちで作れない、エネルギーも自国では得られない、子供たちは大人を尊敬していない、であつてみれば逆に、何も無くなつてしまつたこの町からもう一度、自分たちが明日への希望を発信していかなければならない。」

昨年暮れの衆院議員選挙では、自民党の安倍政権が大きくその勢力を伸ばした。

今年は、憲法改定問題や原発再稼働の動きなどと共に、東北再生の話題についても注目を集めて見たいと思ふ。

放送人句会に参加しませんか

西川章

寒牡丹とかぶらぬ色の持道具 西川阿舟

兄は風流独楽が持道具 伊藤俊郎

逝く秋や吹替の声替りたる 豊田まつり

取前は軍衣の女講師 林 備後

真夏日に電波で届く辞表かな 藤森いずみ

電波からふつと消えられ風死せり 豊田まつり

ブレイクを終へ坂下る良夜かな 新村もとを

代役の多き師走の立ち稽古

堀川とんこう

代役の舞ひ終せたる里神楽 林 備後

床山に迎春の髪結はせけり 山根ほん太

床山の腕振す新春時代劇 西川阿舟

これらの句の「持道具」「吹替」「とり」「電波」「試写会」「代役」「床山」などの言葉は、映画演劇テレビなどのいわゆる業界用語ですが、放送人句会では季語の他にこれら業界用語も必ず兼題として出題されます。

これがやさしいようで、意外に難しい。

放送人句会に参加しませんか。

パーソナル・ヒストリー

パート1 西村与志木

昨年、当会に入っていたこともあり、自己紹介を兼ね自分史の概略を簡単に書いてみたいと思います。しかし全てを、となると紙数も尽きますので、今のテレビのドラマプロデューサーになる以前のことを、そのパート1ということにいたがでしようか。

生まれたのは長野県伊那市といっても、市町村大合併の前は長谷村、南アルプスの登山口といわれた麓の山村です。あまりの山奥で南アルプス主峰の仙丈岳や甲斐駒ヶ岳などは全く見えず、近くの山が天空の3分の2は覆い尽くしているという感じの所です。東京に出てきてから「子供のころは熊と相撲をとっていた」と冗談で言うと、本気にされて面喰らったものです。高校を

卒業する1969年、いよいよ大学受験となったのですが、大学紛争がピークを迎えていました。「大学紛争」といっても何のこともやらという世代もだいぶ多くなりましたが、東大の安田講堂をめぐる攻防戦は当時のシンボリックな映像として今もよく目にします。受験生としては東大と東京教育大（現在の筑波大）の入試が中止となったのですから、大変な迷惑というか、自らの不運を嘆くばかりです。今、振り返ってみると東大や筑波大の入試が中止になったのは後にも先にも、この年だけですからやはり、学園紛争とはいったい何であつたのかという思いは消えませんが、2年後、幸運にも東大に入れたのですが、また学園紛争の余燼くすぶるなかで、授業もまともに行われませんでした。そうした中で大学の学費負担に反対闘争が盛り上がり、あろうことか私もその仲間となり、大学をロックアウト（封鎖）してしまいました。確かそのころの学費は月額3000円で幼稚園の費用より安いといわれていた時代です。そのうちに運動も「革マル派」や「中核派」などの内ゲバ抗争の呈となり次第に陰鬱な感じになっていきました。そうしたことも嫌気がさし、授業も再開されないので、しばらく長谷村の家に帰ってしまいました。私の父は小学校の先生をしていたのですが、家が貧しかったので大学にも行けず検定で教員の資格を取った苦勞人です。何もせずならからしている息子を見かねたのか、ある日、6冊の単行本を買ってきて私の前に置きまし

た。それこそが後にテレビドラマ空前の大型企画となる司馬遼太郎の名作「坂の上の雲」だったのです。

デモに行けるか

堀川とんこう

パリで起きた週刊誌シャルリー・エブド襲撃テロは、更に二つの人質事件に発展し、計17人の死者が出て世界中を震撼させた。政治、経済、軍事すべての面でますますアメリカとの同盟関係を強めている日本が、この増幅し拡散する憎悪の連鎖に巻き込まれないとは限らない。ショッキングな事件だった。

しかし、それに続くフランス国民の強烈な反応にも驚かされた。

全国で300万人を超える人たちがデモに参加し、「私はシャルリー」と叫んで、シャルリー・エブドの痛みを自分の痛みとしたのだ。疑問も湧く。この週刊誌の風刺画がどういう質のものは知らないのだが、デモに参加したフランス人は一様にその風刺画の内容を支持したのだろうか。恐らく風刺画はイスラム教徒の感情をひどく傷つけるものであつたらうに。

そうではなくて、ともかくも発言や表現を暴力で封じようとするものへの、断固とした反対の意思表示があつたデモなのかもしれない。表現の自由を血で購ってきた歴史を持つ国である。表現の自由をおびやかすものに対しては決して屈しないぞ、という

気持の高まりを彼らはデモで表したのだから。

ひるがえって、自分の情けなさを考えてしまふ。去年は何回かデモに参加すべきだと思つた機会があつた。特定秘密保護法、原発再稼働、改憲などに反対するデモである。その都度呼びかけがあつた。日時も集合場所もわかつていた。歩くコースも承知していた。一度は行こうと決めて手帳に予定を書いた。だが、行かなかった。

理由がないわけではない。腰痛があるのでも二時間は歩けないだろう。家族が病院までアッシーをやれといつてゐる。贈呈を受けた本を早く読んで礼状を書かなければならない。さがせば理由には事欠かないというわけだった。

パリっ子はエライなあ。大きな声で言えることではないが、あの広場を埋め尽くした大群衆をテレビで見たときの感想だ。

今年は、行くと決めたときは行くぞ。だがそうになると、中々決めないだろうなあ。*****

街に出るより書を読もう

前川英樹

- 1、健康でありたい。
 - 2、そのためには、歩くこと。
 - 3、書くこと。
- 一シーズン20日は滑りたい。
放送人ブログ「前川日記」を復活する。
記録することをベースに書くべき。

とを書く。21世紀に入つたばかりだけれど、「いま」が世界史の構造的転換期であることは間違いない。それを、どうしよう見たか、感じたか、考えたか、記録せよ。

- 4、読むこと。時代を知るためには「読む」こと。「書」を捨てて街に出よう」というのは至言だが、読むことは大事だ。世界を知るためには街に出るより書を読もう。そのように読みたい。もちろん街に出ることは良いことだけれど・・・。

- 5、美味しい酒を飲みたい。酒は何時でも美味いけど、しみじみと美味しい酒を飲みたい。

次の世代のために 山路孝子

謹賀新年。

年末年始を、ふるさと塩原温泉で過ごしています。親類の、愛らしい幼な伯達に囲まれながら、次世代の為に出来ること、を考え続けておりました。

冬山の遭難、交通事故、そしてフランスのテロ事件：暗澹とした中に、一通のメールが届き、それは私には一筋の光でした。カナダ在住の友人からのメール、諒承を得て転記します。

「トロント市内にダウンタウンを目指すわずか数キロの極く短い、アレン・ロードという名前の高速道路があるので、いつも不思議に思っていました。これはいま

から50年くらい前に、住民の猛反対で工事中止に追い込まれた歴史があるのを最近知りました。

昔マスコミ論で有名だったマーシャル・マクルーハンなど、有名な知識人も反対運動に加わり、社会の警笛を指摘する反対運動の広がり、市中を分断する高速道路の工事を中断に追い込んだようです。先日その高速道路の行き止まりにある公園を訪ねてみて、この住宅街にある広大な公園をよきも保存したものだ、しみじみ思いました。

ところで、名古屋でヒメボタル生息地の保存運動を展開してきた動物写真家の小原玲氏が、本日のブログで名古屋市長が道路建設の中止を決断した、と述べています。

『長年のヒメボタル保全への断えが名古屋市長に届きました。この道路予定地の竹やぶ（天白区相生山）のボタルの写真を撮ったのが2002年の6月です。それが私がこの問題に関わるきっかけでしたから、かれこれ12年半の年月が経っています。前市長時代には、もうこれでおしまいかと何度思ったことか。市役所の用地買収の遅れなどがあって、ヒメボタルの生息の核心部分への工事が遅れたことが幸いしました。少なくとも「園路」（市線の道路のみ）であれば、ボタルは次世代に保全できます。そう多くのボタル生息地を見て来た私は確信しています。』

— 私たちはもうあとすこしでこの世から消え去ってしまうわけですが、先人の残

してくれたものを、次の世代に残す義務はあるんだろうという気がします。〇健勝を祈ります。

身近な玉川上水の自然を守り、憲法を守り、原発はNO！の行動を続ける力が湧きました。

2015年の「元旦の計」

渡辺純史

去りゆく年を顧みて、来るべき年に思いを新たにすることが年末年始の習いだが、現役を退いた頃から、世のありようを大仰に憂い、嘆き、憤り、それを罵詈雑言とともに雲散せむという、呆れるほど過激な気分が過ぎることが多くなった。

しかし今年は違う。過激な気分にならないのである。昨年の母親や肉親、そして多くの友人先輩達を失ったことや、突きつけられた70歳という加齢で目が覚めたのかもしれない。嘆き憤り昂ぶっても、所詮、愚痴ばやきの垂れ流し、世の流れは変わらない。駄々っ子のような末期的な老人病につきあう無駄な時間は、もう自分に残されていないという、妙にはつきりした自覚があるのだ。

では、残されたわずかな時間をどう使うか。大人しく瞑想を飲みながら考えたのは、『幼児退化した未熟な老人』ら脱皮して、『熟成した大人の老人』へ成長することである。嘆き憤るだけでなく、やれること、

やれぬことを明確に認知し、ブレインな感覚で具体的な構想を描き、物事にはじつくりと取り組み、平静に対処する、つまり、『正しい老人』の軌道修正である。今頃何を言いつけるかといった声も聞こえてきそうだが、事実だからしょうがない。子供のようで恥ずかしいが、今年の元旦の計は、『大人』になりたい、である。

その今年、2015年だが、周年に当たる歴史上の事実が多く、周年行事も数多く予定される。

隣国朝鮮を攻め、国を開かした「江華島事件」から140年。日清戦争後、日本の朝鮮・中国・台湾侵略の基礎を作った「下関条約」から120年。「対華21か条の要求」から100年。「治安維持法成立」「中国5・30事件」から90年。そして「敗戦」70年。「日韓基本条約」から50年である。今夏には安倍首相の世界に向けた「総理談話」も予定されている。加えて、今年は「放送開始」90年にもあたる。

改めて現代史とりわけアジア史を問い直すことになる2015年、多くの人々が論考し、多くの議論が交わされるはずだ。またアジア各国をクロスする議論も沸騰するに相違ない。歴史認識の議論も、また盛んに行なわれるだろう。それらの議論に際しては、激しきふるふる自国史観を突きつけ合うものでなく、共通する経済や宗教、地球環境問題、格差問題、食糧問題など、広い視点からなされる、前向きなものを期待し

たい。特に自国史観の形成に大きな力を発揮し、そして今も力を与え続けるメディアには、単に自国のメディアを振り返るだけではなく、この機会にメディアと国益に関するの更なる自省と検証を強めて欲しい。少しひきつけて考えるならば、昨年の日韓中での認識のハズレを考へるにつけ、現実の三国の放送事情の研究に加え、「国と放送と国民」の関係、なかならず自国史観の形成にメディアがどう役割を果たしてきたのか、それを支えてきた東アジア各国の放送法制史的な観点にも立ち返って解き明かしてゆく研究作業も、今年の放送人の会の背負うべきテーマになるのかもしれない。

今年繰り広げられるであろう、様々な議論は、これまでは、十分すぎるほど憂い嘆き憤りのネタになっていたのだが、それを受け、次の年末年始は相変わらず、激しきふるふる座敷を飲む、未熟で「幼い」老人であり続けるのか、より一歩でも歴史を前に進ませる展望を見つければ、そこに自分の微力が尽くされているとの確信（たとえ虚偽による思い込みであっても）を持ちながら、穏やかに座敷を飲む、成熟した「大人の」老人になっているのか、予想するのは怖くもあるが、楽しみでもある。

その鍵は、私の自覚にこそ懸かっているのは勿論だが、この国の指導者の考え方や交わされる議論の自身が、児童にも等しい「小人」なのか「大人」なのかと無関係ではない。

川口幹夫氏 大山勝美氏

追悼座談会

出席者 各務孝、北村充史、河野尚行、
今野勉、長沼士朗、堀川とんこう、
前川英樹、渡辺敏浩

記録 伊藤雅浩

日時 2015年1月13日(火)

午後1時半〜4時半

場所 放送人の会事務局

(千代田放送会館3階)

北村 まず川口さんがご自身で経歴を書いたものがありますので、紹介します。

大正15年(1926年)東京生まれ。父の死で昭和4年(1929年)から鹿児島県川辺郡勝目村(現在の南九州市)でおばあさんと暮らすようになった。それから鹿児島島の旧制7高に入り、東京大学文学部に入學。昭和25年(1950年)4月NHKに入局。だいたい音楽番組担当で、紅白歌合戦に関わる。(72年ごろ?)ドラマ部長として大河ドラマなど手がける。番組制作局長、専務理事放送総局長、NHK放送交響楽団理事長。平成3年(1991年)NHK

K会長に就任。平成9年(1997年)会長を退任。名誉顧問。

そしてその年の暮れに放送人の会が出来ています。

各務 川口さん、大山さんに共通するのは「薩摩っば」、鹿児島出身であること、川口さんは鹿児島にたいする愛着が非常に強い方でした。青山畜場で葬儀を取り仕切ったのは鹿児島出身の葬儀屋さんで、川口さんはこの葬儀屋の役員もしているんです。この葬儀屋さんが若い奥さんと再婚するとき川口さんは招かれて、もう息絶え絶えのときで娘さんの京子さんが付き添って式はうまく行ったのですが、その日泊まったホテルでベッドから落っこちた。大腰骨骨折になつて大騒ぎになりました。そのくらい薩摩っばは同県人にたいして親身になる。

川口さんにはそんなところがありました。川口さんが総局長をやめてN響の理事長になったとき書いた「主役 脇役 湧かせ役」という本があります。本のタイトルも中の見出しも川口さんそのものです。川口さんは主役も脇役も湧かせ役もやってきた。堀川 川口さんはどうやって出世したのですか?

各務 会長になったのは前の会長の島さんの失態で転がり込んだようなもので、本人も「まさか」という気持ちだったでしょう。あのときはMGR、Mは麻雀、Gはゴルフ、Rはレースつまり競馬の遊び仲間。の会が4泊3日の旅で北海道から新潟へ行って、最後は新潟競馬で打ち上げ。そのとき彼は会長の内示を受けていて、大驚愕んでいた。そして彼が一番尊敬する先輩の長沢泰治さん(「大河ドラマ」を始めた人。戦前、松岡洋右が欧州から帰国したときの談話を録音。NHKの中の大親分)のところへ相談に行き、深夜まで話してその足で新潟へ来た。しかし奥さんから電話があつて会長を急げることになり、これから麻雀もゴルフも競馬もできるというのに諦めて肩を落として帰って行きました。

「主役 脇役 湧かせ役」の本の話に戻りますが、目次の大見出しは川口のカワグチ1文字ずつを読み込んで「カ、神様だけが知っている」「ワ、脇役、湧かせ役」「ワ、愚痴も言わずに女房の小春」「チ、力持ちは縁の下」と折込都都逸みたいになっていました。そんな遊び心のある人です。

北村 川口さんは最初間違った人だったのですか?

各務 そうです。

北村 川口さんが福岡のとき「紅白」の第1回が始まっています。

各務 本人はドラマ志望だったのだけど音楽部に配属になった。そこは諦めのいい人で熱心に音楽番組をつくり「黄金(きん)の椅子」などを作つた。戦争中なら「前線へ送るタペ」を作ることになったのだから戦後だから「農村に送るタペ」や町の青年に送るタペみたいな歌番組を作つた。単なる歌謡曲番組でないものを作つておられた。川口さんというと「紅白」とよく言われますが、「紅白」を作つたのは近藤積さん

です。川口さんの本には、近藤さんについては「年中企画を考えているしつこい人」とあり、「紅白歌合戦」の名前で始めたかったが「合戦」はダメだとの占領軍の命令で「紅白歌試合」の名で始めたことあります。

河野 テレビ時代に「紅白」を面白くしたという自信はあるでしょう。

僕は会長になってから初めて口を利いたんだけど、僕は北海道が長く、「夢で逢いましょう」を見ていると札幌の報道課長が

「この番組のプロデューサーの川口さんと同期だ」という。それで名前を知りました。その後EDPS(=Electronic Data Processing System)つまりコンピュータで番組を送出することになり、その研修会の席上に川口さんが現れて説明しました。

EDPS担当の管理職だったのです。その時、「あ、この人はかつての『夢・逢い』の人だ」とわかって、話のうまい人だと感心しましたが、それからは縁がなく初めて口を利いたのは1990年以降です。

渡辺 ドラマ部長の時代は北村さんに縁がある。

北村 彼がドラマ部長になつてしばらくは僕は73年にドラマ部に転動してきて、それから次長になって出るまで、もろに下でやつていました。なかなかはつきりしていきびしかった。決断は早い。

渡辺 森繁さんが受付でもめて「俺は出ない」とか言つたトラブルがあり、鶴田浩二さんが同じような事件があつた。そんなとき謝りや調整役は川口さんが必ずしてい

た。そんな気配り、謝りのうまさはね。

各務 その話を告別式で遠藤（利男）さんがしていました。それは長沢さんの遺伝子（継いでいるんだ。長沢さんがうまかった。私が感心するのは目配りの広さです。NHKだけでなくTBSをはじめフジテレビの横沢彰さんや自分でこれらと思った人には目を付けてまわる。N響の理事長になる前、プリンスホテルで歓送会をやることになり、ゲストスピーカーを誰にしようかと相談に行ったら横沢さんと言われてお願いすることにした。ところが横沢さんは途中で退席していいない。急遽大山勝美さんを見つけて「同郷のよしみで」とお願いしました。そんな風に川口さんは実に視野が広い。

渡辺 ドラマ部長、芸能局長、番組制作局長のころから、いろんな外の会の役職についている。1983年、重役になったばかりのころ、2代目の日本映画プロデューサー協会の会長になっている。初代は東玉の田中友幸さんです。その中で他局のプロデューサーと親交を結んでいます。文化人との付き合いも音楽部長時代の音楽家も含めて広い。1987年、文化バステルを設立します。宇野弘泰さんがフィクサーで大山さんも発起人の一人。僕は川口さんとはドラマ部では縁がなくプロデューサー協会、文化バステルなど仕事でないところで出会っています。

前川 僕も少しだけ縁があります。1984年、僕はTBSの制作局から総合開発

部に異動になり、そこで当時ニューメディアといわれたものを担当しました。当時NHKは高品位テレビを開発していて、これは今の民放の地上波ではできないがこれからの映像の世界では無視できない。どうしようか、村木良彦さんと相談すると「やってみよう」と言う。しかし、道具がない。NHKの技術本部にTBSの技術局長の知り合いがあり、「貸してくれ」とお願いをしました。が、「門外不出だ」と断られました。その後、ソニーから「NHKには内緒ですよ」という条件で借りて、テスト作品を作りました。その頃、スイスのモントレーでやっていたハイビジョンの国際コンクールを日本でやることになり、N響時代の川口さんが委員長代行でした。TBSが出品した「陰翳礼讃」がグランプリを取り、そのことを「TBS調査情報」に書き、川口さんに送ったら「丁寧なハガキをいただきました。川口さんの目配りは著名人だけでなく、その頃は専任部長ですが、そんな人に対して「民放でハイビジョンに興味を持ち、応援してくれてありがとう」とちゃんと目配りがある。その後、ハーティなどでお目にかかることも挨拶し、会話をしておりました。本当に視野の広い方で、関心のある人にはNHKに限らず世代を超えて気持ちよく接してくださった。

長沼 僕は番組広報部の所属だったころ「会長に聞く」と言う番組を担当しました。何か問題があると川口さんに視聴者代表が聞くというものです。「ムスタン」の問題の

ときは猪瀬直樹氏が番組担当者呼び出して説明させると主張しました。川口さんは「わかりました」と答えて、収録が終わりました。収録時間は長いので編集しますが、僕は、この猪瀬氏とのやり取りを「切りましょう」と川口さんに直接言いました。川口さんは「君は何を言うのだ。あれは放送しなくては行けないものだ」とびしつと言われました。この人は凄いなあとそのとき感じました。

今野 「ムスタン」の問題のとき、僕はドキュメンタリーを立花隆さん、吉田直哉さんなどで作りました。川口さんが会長で、編成局長が河野さんだった。

河野 「ムスタン」は1992年の秋放送です。僕の後「Nスベ」の部長になった荻野さん（靖乃、元会員・故人）がCP。荻野さんが広報担当役員で、問題に対応する。全体の問題はお前やれ」と僕がやらされた。問題になったのは明けて93年になってからです。川口さんとは92年に初めて会って、93年から頻りに会うようになりました。

「ムスタン」は放送人の会発足のきっかけになった事件ですからその話をします。僕は報道、情報系の番組をやってきたので「やらせ」には厳しい方です。ドラマ、音楽、バラエティーは演出そのものです。川口さんと話していると、「あ、この人は俺よりテレビに関する許容度は広いな」と感じました。

93年から「クローズアップ現代」が始ま

るとき、僕は何回か説明に行きました。「Nスベ」や「N特」など大きな番組は構成を考え時間がかかる。しかし放送にはタイムリが重要。その事柄に視聴者が関心を持っている時期に番組をぶつけてこそ放送です。一点突破で一点深い取材ができれば、ストーリーは要らない。そんなストリートニュースとは違う番組を作りたい。そのためにはスタジオで起承転結を作ればいい。専門家呼び、一点深みのある取材映像があれば番組はできるのでこの番組を作りたい。キャスターは国谷裕子にしたい、と説明しました。そのときは、「社会現象、政治、経済、事件以外の芸術、文化にもトピカルな話題はある筈で、その面も国谷裕子で大丈夫だな」と念を押されました。「それは大丈夫です」と言いましたがね。

今野 初代会長が川口さん、そして河野さん、荻野さんが理事になったのは「ムスタン」のせいかと思いました。「ムスタン」の重要な3点にいた3人が会に入ってきた。それから川口さんを見ていて、あのときの川口さんの対処の仕方を調べたいと思い、10年くらい経って「テレビの嘘を暴く」という本を書きました。あれはほとんど「ムスタン」に関わるドキュメンタリー論です。あれは制作現場でドキュメンタリーを考える理論的な支えになったのではないかと思います。

NHKに僕の義理の伯父にあたる河村雄次（故人）という教育系のプロデューサーがいます。「ひよっこひょうたん島」を作

った人です。井上ひさしがNHKに泊まり込んで台本を書いて、自宅に井上ひさしを呼んでお見合いをさせたのだけど、これはうまく行かなかった。川口さんは何故かこの河村雄二と仲が良く、僕はこの二人と3人でメシを食ったことがある。河村雄二次という伯父もなかなか粋な遊び人で気が合ったようです。

各務 河村くんなら知ってます。青少年番組部にいた。井上ひさしとやってたのは萩原良佳という人で、(心臓病で早くに亡くなった)この人が凄いいアイデアマンだった。企画力ではNHKナンバーワンです。川口さんは番組制作局長だったとき、ユニセフから国際児童年の協力を呼び掛けられ、萩原くんに担当を頼んだ。彼が提案したのが1分番組。ゴダイゴの音楽を使って世界の子どもたちの表情とかを1分だけ見せる。これを毎日流せば絶対受けると提案した。川口さんは「1分じゃ短い、3分じゃどうだ」と言ったら萩原くんは「3分じゃやけりダメで1分にしたら成功した。ディレクターが「3分じゃダメ、1分だ」と主張すると結局はそれを認める許容度が川口さんにはありました。

今野 そろそろ話の時代が放送人の会が発足のころになってきたようですね。準備委員会のメンバーは亡くなった方がかなりあって、ここには僕だけかな。

堀川 僕はときどき出ています。

今野 準備委員会は毎月1回有志が集まっ

て2年くらい続いていた。NHKでNスベの部長の藤井潔さん、それから平原さんなど。

堀川 準備委員会は実践女子大でやったことがあった。

今野 あれは平原さんが勤めていた大学で、委員会は藤井さんの事務所で行ったり、いろんなところでやった。大山さんも来た。

堀川 そうです。制作の現役のころで、僕は大山さんに誘われて来た。

今野 動いていたのはほかには村木で、中心になっていたのは牛山純一さんです。まとめ役だった牛山さんは発足の半年ほど前に急逝する。えーしうしう、というとき、川口さんが会長をやめた。それでNHK組の藤井さんと平原さんが「川口さんに頼もう」と言い出した。それまであまり付き合っていないのに引き受けてくれるかなあと恐る恐る伺いをたてたら「ああ、やっていいよ」との返事だった。

川口さんの会長が始まったことで放送人の会はNHKの会員が非常に増えた。これが牛山さんだったらそうはいかなかっただろう。放送人の会が発足のときNHKの会員と民放の会員がほぼ同数になった。それは放送人の会にとってすごくいいことだった。

伊藤 川口さんはNHKの会員の勧誘をやったことだったの？

今野 露骨にはやらないが多少はやってくれたでしょう。それと日頃いろんなところに目配りしている人だから、川口さんが会

長なら入ろうという人は多かった。川口ファン、川口人脈で会を支えようという雰囲気になったのです。

堀川 会の雰囲気は和らいだ。牛山純一、今野勉、和田勉とかではとんがり過ぎていて警戒心が湧くが、川口さんで会の顔が和らいだ。

今野 年齢とか、準備委員会に関わっていた順番から行くと牛山さんでなかったら大山さんになるはずだが、突然「川口さんに頼もう」ということになったのはなんだろう。人間の運命って不思議なものだと思ふし、川口さんという人がどんな人か、それだけでも分かる。みんな全一致で「そうだ」となった。

河野 人と話すのが好きな人だ。駄洒落が好き、3つの「た」とか3つの「s」とか、大衆に話す話し方がうまい。政治家との付き合いはあったのだろうか？

北村 僕は知りません。ほとんどないでしょう。

前川 前後の島さんと海老沢さんは間違いない。なくあさとい政治的な人で、その間に実におだやかな川口さんがある。しかしNHKの会長が全く政治的でなくていられるはずもない。

河野 会長になって1年経ってネクストテンというC I (Corporate Identity) 運動を始める。島さんは非常に政治的な人で衛星放送を始める、民放で非難轟々だった総合ビジョンとかエンタープライズとかビジネスを始める、などやって、そのため運命

を狂わされたひとが「まん」といふ。島さんは会長になる前は政治家を強く利用した。特に宏池会。ところが会長になると僕ら兵隊の前でも「政治家のバカども」と罵り、政治家を徹底的にバカにした。それでどんな形になったと思う。そんな人の後だから放送現場を大切に、視聴者を大切にする。これは川口さんの体質にも合っていた。

「1995年は放送開始70年だから、2、3年かけてNHKがその前に何をするか考えよう。そのために30代の精鋭をありとあらゆる部から集める」と言い、僕がその集める係になった。西沢くんという事務能力の優れた人を事務局長にして1か月か2か月に1回会議をやる。本当は会長に出席して欲しくないのだが川口さんは「ある」と出て来て、若い連中と話すのが本当に楽しそうでした。番組以外の方法でどうやってNHKをシステムとして視聴者に開放するかに頭を悩ました。川口さんはいろんな人と話すことは嫌いじゃなかった。しかし政治家と付き合ったのは知らない。NHKは通信委員会です算を認められなければならぬ。また電波を確保するために役所と付き合いなければならぬ。しかしそれを積極的に付き合ったフシはない。

渡辺 経営委員会が決めるのだけど、それにサジニッションを与えるのは経営計画のいわゆる政治部記者です。そこに働きかけてくる意思を持った政治家はいないのだが、それを積極的に利用する意識は全くなかった。

僕は彼の個人的な趣味みたいなところに付き合わされたのですが、日常的な場でそういう政治的な付き合いの話を漏らされたことはない。そんな付き合いがあったという気配は少しもない。

今野 放送人の会の会長を引き受けるときは放送現場の人間の集まりだと聞いて遠慮なく即座にその場で引き受けた。

渡辺 放送人の会ができ、川口さんが会長になり、平原さんがそれに絡んでいることについて次の執行部に（具体的に）は海老沢さん、すぐ聞かれました。政治的ではないのだけど、政治的な人からは政治的にみえたのかもしれない。放送人の会に確かにNHKの人は多く入会しているのだけど、実際にいろいろ動いている人は入りにくい雰囲気はあった。勿論それはすぐに何でもないと了解されるわけですが。

ネクストテンで若い人と話すと、総局長会長の時代にいい仕事をした奴を必ずテイクノートして、手紙を出すか何らかのメッセージを出すとか、そんな気配りはものすごくありました。それが人との交わりを作っていた。川口さんの時代は長いNHKの歴史の中で最も文化の香りがした時代です。放送文化という言葉は陳腐のようだが、放送をどうするか、太所高所からでなく考えているのはよくわかった。

各務 川口さんはもともと非常に筆まめな方です。「ムスタン」の後不払いや抗議などいろんなハガキ、手紙がきた。それに対する釈明文をせっせと書いておられた。お宅

に遊びに行くとき書いている。「また書いてるんですか」と言うと「しょうがない。これが私のつとめだから」と言い、1日100通書いたそうです。

渡辺 筆まめという点、僕が札幌の制作課長をやっているとき川口さんはNHKの理事長で札幌の子どもミュージカルが気に入って褒めた。すると主催する細川さんが喜んで、川口さんを座付作者として依頼した。

それで川口さんは「ボロリントン物語」という戯曲を書きます。このミュージカルのボーランド公演に川口さんは2回同行しています。戻って来て札幌市民会館で公演をやることになったとき、僕は呼ばれて「これを中継できないか」と言われた。収録して放送しましたが、作家、演出家としての川口さんは東京にいたので「君、劇団の面倒を見てくれ」と言われた。その後川口さんは「オラバ」を書く。ボーランドの民話をもとにした盗賊と町の少女たちの物語です。素晴らしい舞台で、札幌公演のあと北区公会堂で公演しますが、川口さんは毎回観にきて、公演のための費用も出しています。費用は文化バステルのおかげです。資生堂、サントリーなどメセナをやっている企業に働きかけ、文化人、音楽家、芸能人などを集めて文化バステルは生まれますが川口さんと大山さんは最初から関わっています。阿木翁助さんが初代会長、次が川口さん、その次が大山さんです。

今野 大山さんが会長るとき、放送人の会のイベントで文化バステルとはかなり付き合いがあった。

渡辺 山田太一、天野祐吉、つかこうへい、内館牧子、唐十郎、池辺晋一郎など文化人グループはここでできている。その流れの一環としてミュージカルの創作活動が続いている。

今野 川口さんが書いた作品は何本もあるのですか？

渡辺 「ボロリントン」「オラバ」と長崎で被爆した神父の物語があります。そのほかクリスマスなどの小さな構成もの、子どもの歌の構成とか……

今野 忙しい会長のとき書くのは大変だ。**渡辺** 原点というか。根っからの芝居好きですね。

各務 奥さんを亡くされて、家に帰ってもしょうがない。そのせいもあるかな。**渡辺** 奥さんは写真家で、札幌子どもミュージカルを撮った写真が残っています。

北村 万葉の花の写真で知られている。

各務 川口さんで感心するのは公私の区別がはっきりしていることです。永六輔がエッセイに書いていますが、会長時代に彼の所へ行くのに往復タクシーだった。永六輔が「会長用の車を使えば……」と言ったら「そんなことはできっこないじゃないか」と。**渡辺** 子どもミュージカルの打ち合わせは電車、一緒に電車ですり抜けました。

前川 これは会長時代ですが、民放連の会長と対談をしています。当時TBSの磯崎社長が民放連会長です。僕はメディア担当で二度NHK会長と平場で議論するのは

どうですか」と提案したら磯崎氏はOK。「しかしNHK会長は難しいだろう」と言われた。NHKは窓口で「難しいですが、伺ってみます」と言い、すぐにOKがきた。番組になってNHKで放送されたはずですが、非常に珍しいケースだそうです。川口さんだから成立したことなんですね。

河野 川口さんの麻雀仲間、ゴルフ仲間、競馬仲間というのってどんな人たちですか？

各務 最初は僕とNHKの人とビクターの人、作曲家の桑原研郎など4、5人です。だんだん増えて最終的には10人くらい。

長沼 川口さんは万馬券を2回取ったと聞いています。川口さんは競馬のほかに相撲や野球の予想もした。年末になると来年活躍する力士は、野球選手は誰かと予想した。プロ野球では阪神の熱狂的なファンでした。僕も阪神ファンでタイガースの話は何回かしましたが、仕事の話以外の楽しい話が気さくにできる方でした。

各務 川口さんは競馬のほか競輪、競艇もみんな好きです。競艇と一緒にいったことがありますが「競艇は何が終わりか」というところは出発したところが終わりなのだ」と教えられました。

北村 この会報の初期の川口さんの連載コラムに競馬の話は出てきます。

河野 万馬券を取ったとき馬券を高く掲げて自慢して歩いたとか。

今野 川口さんが言った5つの「しん」は見事です。新しい「新」、深い「深」、信じる「信」、真実の「真」、進むの「進」。

渡辺 そんなのが好きなんです。3つの「た」

（放送に大事な「た」よりになる）「た」にな

る「たのしめる」など。

北村 しかし若い人がドラマの企画を出したりするときびしかった。「こんなものどこがおもしろいんだ」とコテンパンにやられた。

河野 「夢・逢い」のディレクター末盛（憲彦）さんの奥さんと昔から交流があり、この奥さんは聖心女子大で美智子さんと同級で、児童文学の大家です。美智子さんも児童文学には深い。1998年ニューデリーで児童文学の大会があつて美智子さんが招待された。そのとき川口さんが僕のところへきて、美智子さんの話をVTRに撮ってニューデリーに送りたいとの企画がある。

協力してくれ、と言われた。当時ハイビジョンのカメラがようやく小型化し、テストの済んでいるカメラが3台あつた。それを皇居に持ち込んで皇后の話を50分くらい収録して送った。ディレクターは女性の梶原くん。収録したものをみてこれは放送してもいいだろうと思つて渡辺侍従長に電話したらしばらくたってOKになり、放送した。これを皇后さまが大愛喜んで、川口さんと僕と梶原くんと皇居で昼食を食べるようになった。僕は太いに喜んで行こうとしたが、川口さんは皇居に行くことにひどく抵抗するんです。これは断れないのだ、と無理やり一緒に行きましたが、その時の川口さんの気持ちは少しわかる。川口さんは七高時代に軍隊に徴用されていますが、

戦中派なんだね。

北村 徴用されたとき育ててくれた祖母のオトマツさんが「お前死ぬんじゃないぞ」と川口さんの肩をゆすつて泣いた、と書いています。川口さんは戦争が終わったとき20歳です。

各務 川口さんの奥さんは原始共産主義者で私有財産の相続を認めなかった。唯一、娘さんのために買ったアパートだけが残った。

渡辺 会長になるまで社宅住まいだった。

堀川 鶴橋の出世作になった「新車の中の女」（読売テレビ、浅丘ルリ子主演）という連続ドラマがある。僕は寝そべつてみていて思わず「これは」と起き上つて注目して見たくらい衝撃的に面白かった。これを川口さんが見えて、バーティーで会つて「鶴橋くん、あれは面白かった」と言うのを僕はみていた。以後バーティーで会うと川口さんは僕には全く話しかけないで、まっすぐ鶴橋のところにへ行つて「やあ鶴橋くん」ですから、羨ましいなと思いました。ドラマ好きでしたね。

各務 ドラマの演出は本人がやりたくてできなかったから。

堀川 放送人クランブリが始まって選考会でお目にかかつてから口をきくようになりました。グラランブリでは実に接吻がうまかった。

―休息―

各務 今野さんが本の中で大山さんが「昼行燈」と呼ばれたとありますが……

今野 昼間灯つている行燈、ぼわーつとしていて役にたたない。大石内蔵助です。僕らが入社したときは「大山みたいなADにはなるな」と言われた。一方ADの鑑と言われた人がいた。その人は本当によく働いて何もかもびしつとやる満点の人だった。

彼を見習えと言われた。両方が同時期くらいにディレクターになったのだけどADの鑑が作るドラマはちつとも面白くない。大山さんはまるで次元の違う映像でドラマを作りだした。

ADの時はスタジオの中でモニターをじつと腕を組んで見えて「ダメだなあ、これは」と言うだけ。仕事らしいことは何もしない。最初から大物だったんですね。

伊藤 「石原慎太郎ミステリー」を見ていないのだけど……

今野 僕らの世代の新人演出部員は全員映画青年だったけど、当時のテレビはほとんどが電気紙芝居と言われる程度のものであった。和田勉のドラマは既にあったが、「石原慎太郎ミステリー」は「あ、これは電気紙芝居ではなくった」という感じだった。

堀川 慎太郎が原作を書いたの？

今野 慎太郎の短編をもとに自由にドラマにしていた。

北村 慎太郎が脚本を何本か書いている。

今野 最初は短編を基にして作っていて、それを慎太郎が見て「これは凄い」と思ったらしく、あちこちで宣伝し、自分でも書

いた。カメラアングル、照明の使い方など衝撃的だった。

前川 伊藤さんが同期入社ですが、採用はテレビ要員、ラジオ要員と別れていたのですか？

伊藤 分かれていませんね。

今野 大山さんだけはテレビ要員だったと聞いた。

伊藤 入社してすぐの新人研修ではみんな同じ一般職です。

今野 田中千未夫、澄江夫妻の家で書生、息子さんの家庭教師をしていて、田中さんがTBSに頼んで特別扱いされたとか。

各務 最初は芝居志向だったのですか？

今野 舞台は田中さんの縁でよく見たようですが、映画にも行きて、東宝を受験した。

前川 新人研修のときも「昼行燈」ですか？

伊藤 いや、田舎っぽい彼の風貌から「山賊」と呼ばれていました。

前川 同期は何人ですか？

伊藤 一般職が50人ちょっとです。

今野 僕らが一番採用が多かった年だと聞いたがそうじゃないんだ。

伊藤 昭和32年入社はアナウンサー、技術と途中入社などを入れると100名を超えます。

前川 今野さんは34年入社？

今野 そうです。その翌年大山さんはディレクターになっていた。その頃カメラマンをやっていた人がスタジオ風景の写真を残していますが、スタジオに広い白い布を敷

き、周りに大勢の農民がいてクレインカメラがある。

堀川 それは「地蔵」だね。

今野 そう。大勢の農民が白い布の上を殺到するところをクレインの俯瞰で撮る。今ならワンカットだけ撮るのは簡単だが、当時は生放送だから次のシーンはどうしたのか心配だ。

堀川 「地蔵」には4番目のADが入っていたが、本番は大混乱で、ADも農民の恰好で群衆の中に入ってキューを出した。チーフは高橋一郎さん、ほかにタレントアルバイトのADがいたのだけどこの4人ではさばききれなくなった。物語は地蔵を拜む、拜まない、それに女が絡むという不思議な話で、こまかいことは忘れたが最後は地蔵のアップでないと終われない。ところがその前に群衆が殺到していてカメラが寄れない。大山さんはサブで「地蔵！地蔵！」と叫ぶが地蔵は撮れない。(笑い)

今野 そんなことを含めて衝撃のディレクターだった。

堀川 とにかく、いつも何か新しいことをやろうとしていた。

北村 僕がみたのは62年(昭和37年)の「鏡子の家」で、強烈でしたね。

河野 いつからドラマはVになったのですか？

今野 僕は65年(昭和40年)の1月から「七人の刑事」に入りますが、その時はブロッコリーを撮っていた。一時間ドラマを10ブロッコリーくらいにして撮った。編集はした

がポストプロダクションはないから、音楽は現場で入れなくちゃいけない。

北村 昭和35年には芸術祭参加番組ではVTRを使うことが許された。

前川 「私は貝になりたい」の後半がVTRであれば昭和33年。

今野 とにかく大山さんがディレクターになったときはほとんどスタジオ生です。変わったアングルは1回くらいは撮れるがその後どうするか困るので、ふつうは平板にカメラが右往左往するだけのドラマしか作れなかった。そのとき彼は一流の強引さでやった。おつとりとしていて絶対にひかない。技術陣が最初は猛烈に抵抗した。しかし何とか工夫してやってみると見た人からわーっと反応がくる。スタジオの技術スタッフは生だからオンエアは見られないが、だんだん「よし、やるぞ」ということになり、大山さんのやり方は通るようになった。

堀川 僕がADにつき始めたのは入社2年後、昭和38年頃からです。近鉄金曜劇場の単発シリーズはビデオでオンエアしていた。本読み室にモニターがあって、「堀川ちゃん付き合ってください」と言われて付き入り。モニターの画面をスチールカメラで撮った。当時映像の記録はそれしか残せない。自分の好きなカットになるとパシャパシャとシヤターを切った。タイミングによつては走査線がはいったりした。それまで僕は「夕焼け天使」「咲きさんちよっ」とな少明るいホームドラマについていて、テレビってこんなものかと高をくくっていた。それが大

山さんの近鉄金曜劇場の単発シリーズについて、スチールカメラのパシャパシャを見て、こんなに映像にこだわる人がいるのかと思った。僕は報道志向でTBSに入ったのですがドラマも面白いかもしれないとそのとき初めて思いました。

今野 大山さんの上に巨匠として岡本豊彦さんがいて大作、名作をすでに作っていた。「私は貝になりたい」その翌年が「いろはにほへと」で、番組のテーマは社会的認知度があった。それにも拘わらず僕は入社したとき徹底的な岡本批判から始めた。テーマ主義は批判する。「あんな甘つちよろいヒューマニズムで番組が作れるか」と言った。

堀川 岡本に続けという雰囲気はなかった。

今野 そんなときに大山さんが出た。

伊藤 初期はチャイエフスキーの日常を描くドラマではなかったか？

今野 いや、文学作品です。原作のある文芸路線。「鐘子の家」の原作は三島由紀夫、高橋和己「悲の器」、大江健三郎の「孤独な青年の休暇」、北杜夫「機家の人々」など、みんな文学作品です。チャイエフスキーに出会うのはその後で、出会ったときはプロデューサーだ。

前川 僕が39年に入社したときはほとんど演出はせず総合プロデューサーだった。

今野 文学作品が原作の彼の作品は全く残っていない。さらに言えば彼の初期の映像が衝撃的だったと言っても全く説得力がない。

河野 シナリオライターはどんな人？

今野 山田正弘という詩人とよく組んだ。

そのうち若い構成作家が出て来てその人たちともやっていた。

前川 全編ではないがシンボジウムで「正塚の婆さん」と「若者・努の場合」は見たことがある。

今野 とともに芸術祭参加作品だ。ともに奨励賞で、3回目の参加作品「真夜中のあいさつ」で大賞を取った。

各務 大山さんは労働組合やTBS闘争などには無関心だったのですか？

堀川 率先して関わったことはありません。

伊藤 「真田幸村」を撮っていた時はスト中にスト破りをして仕事をしてた。(笑い)

今野 あの人はめったに失敗作がないのだけれど、「真田幸村」はドラマのスケールと現場の能力が違い過ぎての失敗作です。闘いのシーンを撮るのにどれだけのお金と時間がかかるか計算できなかった。物凄く暑いさなか鏡を着てのロケにエキストラ30人を予定して現地に行くと2人しか来ていない、とか。撮ったVTRを自分で編集する時間がないから高橋一郎がVTR編集担当ディレクターになった。大山さんは編集には口を出せずと現場にいた。ほとんど野外ロケで大変だった。それがTBS闘争の真つ最中です。

堀川 AD時代、大山さんには芝居によく連れて行って貰った。「今夜見に行くよ」と民芸、青年座、俳優座などなど。和田勉作品の上映会が草月会館であり、2、3本み

た。強烈な想い出です。

北村 それは多分キネコ版です。

今野 奥さんの渡辺美佐子さんの舞台の初日には必ず来ていたそうです。

堀川 花を持ってきたそうです。

河野 テレビディレクターは舞台のどこ、どういふところを見るのですか？

伊藤 まず役者探し。

今野 そうです。探しました。みんな若かったしドラマの主人公も若い。ふつうに映画や舞台をみると使えそうな若い役者が出てこない。ふつうの舞台ではなくスタジオ公演といって劇団の中の稽古場でやる多居などを徹底してみる。僕は劇団名簿で役者を400人覚えたことがある。そうして見つけた役者を使って会社へ行くと「あいつどうやって見つけたの？」と聞かれた。

堀川 思い出しますね。今野さんがややとんがった役者を起用して犯人役で使ったりした。

今野 つまり舞台をみるのは仕事の延長です。大山さんが最初にそれをやった。

堀川 昭和38年頃、夜10時から11時頃演出部の部屋にいたら大山さんから「新宿に宅送の伝票持ってきてよ」と電話がかかってきた。新宿の大きな喫茶店の奥まったところに大山さんと女優がいて、二人に一枚ずつタクシー券を渡した。女優にアプローチすることにエネルギーをさいていた。

今野 大山さんのドラマにかけるエネルギーは凄かった。その部分がふつうはなかなか見えなくて、大山さんについての話は突

然「岸辺のアルバム」から始まることが多い。あれはプロデューサーとしての仕事だ。彼がエネルギーをまそいだディレクター時代の作品が残っていないのはテレビ史にとつて非常に残念です。

前川 「若者・努め」の場合は37年秋放送だが、当時はまだ3社ニュース朝毎誌が放送されていて、それは映像とコメントだけで、これに比べれば「若者・努め」ははるかにジャーナリスティックだった。大山さんはテレビをジャーナリズムだと思っていて、その点を僕は評価する。

今野 大山さんで感心するのはずっとビデオ映像でドラマを撮ったこと。努めの場合も工場の中を除いてほとんど外ですが、フィルムを使わない。大山さんは生涯1、2度はフィルムを使ったことはあるらしいが、めったになくビデオ映像にこだわった。ビデオの映像はある意味でフィルムよりリアルに撮れる。フィルムで撮るとどうしても映画になる。フィルムにはカメラが小型でいろんな角度から撮れる、編集が容易だ、という利点があるのだが、彼はフィルムへは行かなかった。

前川 撮影のために中継車を持って行く。

今野 中継車、電源車、VTR車と3台パスが必要だ。大きなカメラで自由な撮り方で撮る。それでもフィルムを使わない。この感覚はちよつとない。

堀川 「岸辺のアルバム」までの大山さんは社会派で始まっている。岡本愛彦さんは「いろはにほへと」の後ドキュメンタリー

の「1960」で行き詰まってしまふ。正統派社会派が通用しなくなったテレビの変容をみてか、大山さんは大作主義へ行く。彼は「放送はつまり芸術たり得ないのである。そこに無限の表現の可能性が秘められているかもしれないと錯覚している時期は過ぎたのだ」と昭和38年にもう書いている。その後、大山さんは芸術たらしめようと必死に足掻いたと思う。何故こんなことを書いたかわからないが、この時期テレビの変容にやけになっていたのだろう。

今野 僕も雑誌に似たようなことを書いたが「芸術たり得ない」という表現ではなく、「芸術ではない。別の表現なのだ」と書いた。既存の芸術では表せないものを表すので「芸術ではない」と書いた。大山さんの表現には驚くが、彼はそこからはじまったのではない。ビデオにこだわり、外でスリッチングした。

伊藤 テレビでしかできないことをやるのだ、とよく言っていた。

河野 その頃NHKでフィルムでドラマを撮っていた人が何人かいる。

北村 「テレビ指定席」(61年〜65年放送)で映画スタッフ(新東宝系が多かった)が60分のオールフィルムの番組を撮っていた。

今野 オールフィルムで撮るのはもうちょっと後に佐々木昭一郎がいる。

渡辺 僕の名古屋時代では、中継車、電源車を出すなんて出来ないからフィルムカメラで撮ってきて、スタジオで再生しながら

スタジオの面と一緒にし、編集もしちゃった。

堀川 「七人の刑事」がそうだ。

今野 そのことに疑問もなかった。画像がまるで違うことを気にしなかった。大山さんはそれを愛した、いやだと思っただね。その感覚は凄いなと思う。

渡辺 NHKが外でビデオ撮影ができるようになるのはENGになって小型になってからです。NHKにはドラマにもフィルムに慣れる人が多くて昭和50年代になってもオールフィルムの放送様がありました。

堀川 「努め」の場合は古い社会派ドラマの作り方を引きずっている。非正規雇用の若者の話だ。「悲の器」「正塚の婆さん」から10年以上たつて山田太一の「真夜中のあいさつ」をやる。僕は大山さんは山田さんと出会ったことで大きく変わったと思う。

今野 それまでの映像路線、文芸路線で行き詰まっていたのが、ここにテレビの生きる道があると発見した。

各務 「ふぞろいの林檎たち」は大山さんの演出ですか？

堀川 一本も撮っていない。

今野 いや、第2シリーズで一本だけ撮った。しかし、ほとんどプロデューサーだ。

渡辺 どうして一本だけ撮ったの？

堀川 ディレクターのローテーションが回らなくなつてやむを得ず。プロデューサーは時々そんなことがある。僕も「岸辺のアルバム」の演出を一本だけやっている。

北村 記録が残っていない1960年代に

60年から64年にかけて発行された「月刊テレビドラマ」という雑誌がある。そこに今野さんの脚本も掲載されているが、大山さんが書いたものもありそうだ。

今野 山田さんと出会う前に3時間ドラマをやっている。

堀川 伊藤博文が主人公の「風が燃えた」で、僕はディレクターだけど自分の履歴から消したいくらいだ。大山さんはそのころ胃袋が丈夫になっていて伊藤博文でも消化しちやうた。あれは以前の俗っぽい上昇志向の大作主義を引きずって、テレビマシニオンが作った「海は燃える」が羨ましくて悔しくてしょうがなかった。そのことは「カズモ」を作ってから引きずっていて、人間は変わらないところは変わらないのだなあと思う。

河野 伊藤博文のドラマは朝鮮併合や暗殺まで描いているのですか？

堀川 暗殺までの物語ですが、日韓関係の歴史的な部分は全然描いていません。井上聞多との友情や奥さんのお梅さんとの出会いなど明治維新物語です。前半を三浦友和、後半を並幹次郎、お梅さんを山口百恵がやって、大視聴率。大山さんは「パンザイ、パンザイ！」とTBSの中を叫んで歩いた。

前川 世俗的なねえ。わかりやすい。

堀川 緑山が出来たとき、緑山で最初にドラマを作る人になった。あれも三井の方、経営陣の方を向いている感じがする。

今野 少年みたいな稚気がある。

前川 あの人は自分のテレビ人生をどうし

たかったのだろうか。演出に戻りたかったのだろうか。

堀川 本当はそうでしょう。僕が2時間ドラマの総括Pをやっているとき、漱石（四ノ）それから「一本木」をやっている。その時は一所懸命演出をやっていた。2時間ドラマで、お金がかかり過ぎるので、スタジオ2日、ロケ5日と決めて、そこから絶対にはみ出しちゃダメだ、とタガをはめてみんなにやらせていた。ところが大山さんのドラマがこの範囲にどうしてもおさまらない。スタジオがあふれて、もう1日スタジオを使わせてくれ、と言ってきた。ダメです。若い人にも全部これでやってもらっているからと言ったら、緑山の太道具倉庫の横に座敷のセットを作って「これはロケだ」と言い張る。プロデューサーになっても演出家としてきっちりしたものを作りたいと最後まで思っていましたね。

今野 あの人は一生ディレクターでありたいと思っていたのでしょうか。放送人の証言で聞き手が「プロデューサーにはプロデューサーとしてやれることがあるでしょう」と何回も話を誘うのだけど、大山さんは「いや、やはりディレクターをやりたいかった」と答えていた。

堀川 ディレクターの仕事が面白かったんだね。

前川 和田勉さんはずっとディレクターでプロデューサーはやらなかったの？NHKは職制が違う？

渡辺 TBSの話の聞くとプロデューサー

とディレクターが交互に入れ替わったりして、いいなあと思います。NHKはまずディレクターとして始まって40台で管理職になる頃進路が決められて行く。特段のことがないと行政職としてのプロデューサーになる。お金を管理するわけです。もう一つの進路はCD。管理職でありながらディレクターを続ける。演出力のあるCDは1本立ちのCDですが、管理職になっても行政職ではないCDでデスクをやったり制作補助をやったり、成長してプロデューサーになったりしますが、そんな人がディレクターに戻ることはまずない。プロデューサーになると一生プロデューサーを続ける人もいますが、ほかのセクションや地方に異動になるとか、いろんなケースがあります。今はプロデューサーしかやらないとドラマ部へきて1本もディレクターをやらずにプロデューサーになる人もいます。フジテレビでプロデューサーが華やかだった時期がありますね。トレンドイードラマ流行のときとか。それ以降プロデューサー志望がいまが基本はディレクターから始まる。

伊藤 話を大山さんに戻しますが、彼は満州・瀋陽の生まれで、放送人の会の日韓中フォーラムのようなことがやりたかったのじゃないですか？

今野 そう。中国、韓国（への関心）は強く、関心だけでなくよく行っていたし、たくさん知り合いを作った。あれは大山さんとしては珍しい。付き合うにはエネルギーが要る。言葉の問題、お金の問題がある。

北村 中学に入るまでが大陸ですか？
伊藤 戦争中に一人で鹿児島に帰っています。僕と入社は同期ですが、2歳上、1932年の早生まれです。

今野 満州生まれについて本人はあまり語らない。書いてもない。

北村 お父さんは確か英語の先生。
各務 日韓合作の「希望の翼」に彼の思いは込められているのではないですか？しかし、悪いけど文部省推薦みたいだった。

堀川 大変な努力をしているのだけと罪のないヒューマニズムによりかかった毒のない作品になった。毒は盛り込みようがないと初めからわかっているのにどうしてやるのかなあ、とそばにいて疑問だった。
前川 横浜大会でみせた情熱は凄かった。感心しました。

河野 義務でやっている感じではなかった。あの必死さはあれが最後の姿ですね。

今野 日韓中は自分が作ってきたという責任を感じていたのでしょうか。ここでもめちや困ると思つて納めようとした。
河野 あのと大山さんの体調は凄く悪かった。

堀川 亡くなって渡辺美佐子さんと話した時、腸閉塞という言葉が何度も出てきた。横浜でもその症状があった。

今野 10数回入院を繰り返したのは腸閉塞の症状で、それは胆管手術の後遺症です。何日か入院すると元気になるって出てるのだが、1、2か月するとまた症状が出て入院する。

渡辺 横浜の日韓中の前には体調が悪かったように、僕のところへ宿泊するホテルのことで聞いてきた。「体調が悪くて固いものが食べられない。お粥など流動食が出せるのか？」と聞くので、朝はバイキングでお粥、おじや、スープなど必ずあるから心配ない、と答えると安心していた。お腹に優しいものでないとダメだという自覚はあった。

前川 16日の午前中、会場に現れなかった。心配して電話したが出ないのでメールにメッセージを残したら、午後出て来て「こんなに優しくしてくれなくてもいいよ」と元気ですっきりした話しぶりでした。だから17日の事件で頑張って体調をこわしたという認識は僕にはない。

渡辺 tvkでパーティーがあつて、挨拶をして、けっこうお酒も飲んでいて、川口さんの米寿の祝いのときも直前まで出席かどうかわからなかったが出て挨拶した。

今野 5000万円の寄付の話が来たのは昨年5月だが、そのとき体調はかなり悪かった。それを自覚しているようだった。「わかりました。次の理事会で発表します」と言ったのだけど、口頭だけで何にもないのは困る。肉声を録音することにした。その後大山さんは入院したので、病院のロビーで録音しました。理事会では再生できなかったけど。

堀川 奥さんに金額を言っていなかった。**今野** 奥さんは「寄付はする」と聞いていたが、いくらかわからなかった」と言うので

僕は前後の経緯も含めて手紙を書いた。返事には「丁寧なお手紙ありがとうございます。金額に異存があるわけではなく、教えてほしかったものですから」とあった。**渡辺** 奥さんにとっても少なからぬお金でしょう。

堀川 奥さんは「あのケチが」と繰り返して言っていたがね。(笑い)

今野 寄付のことは前から考えていて、金額やいつ言うかについて悩んでいたと思う。昨年になって決断したのだね。ふつうの年のフォーラムなら欠席したと思うが「パンフレットに大山勲義葬金が運営費にあてられていることを書きます、いいですね」と確認をとった。それで顔を出さなくちゃいけないと思ったのでしよう。

伊藤 代表幹事が彼から今野さんになつたのは体調のせいですか？

今野 幹事会に出てこれなくなったのがきっかけです。

長沼 日韓中フォーラムはスタートから無錫大会まで大山さんが主役で山田尚さんと僕がサポートと認識していましたが、最近石橋冠さんから聞いたが、日韓中を引き受けるお金がかかる。そのため民放キ

ー局から毎年50万円貰おうと、日テレの社長にお願いに行くのに石橋さんに仲介を頼んだ。石橋さんは「あの大山さんがお金のために頭を上げる」と思っ「お金がかかるなら放送人の会で日韓中をやるのは止めたらどうか」と言ったそうです。それでも

やったのは大陸生まれ、日韓、日中における思いがあったのでしよう。

渡辺 僕は札幌大会から日韓中に関わっていましたが、それまでの国際交流基金や放送文化基金への申請書の名義は大山さんです。札幌大会のときは民間のお金を集めようと電通にアポイントを取って「ナベちゃん行こう」と一緒にいき、気軽に頭をさけた。

いろんな人の名前を出して半づる式にお金を集めた。引きずられましたね。今回も「お金どうなってる？」と何回か聞かれました。「何とかなっています。本当に困ったからお願います」と答えました。お金集めには熱心でしたね。

今野 自分が始めた事業家という意識があつて心配したんだ。

堀川 人並み外れた行動力、足まめさがあつた。

今野 見かけによらず腰が軽い。

堀川 僕は5年間カズモにいましたが、そばでみていてこれはとても真似できないと思った。企画をたてるための読書量も物凄いが、その各局への売り込みも非常に足まめにやつた。僕は最初ついて回ったが途中からいやになってついて行かなくなった。成立した企画の中にはどうかなと思うものもある。NHKでやつた酒井法子主演の連続ドラマ「おかみになります」は、制作者の名前を出さないで欲しいと思うようなものだ。大きな作品では石橋冠さんの演出でたけしの「兄弟」、「新宿鮫」、僕が撮った「長崎から長崎」などいろいろあるが、作っ

て売り込んで行かなくては会社は回って行かない。「年間これだけ売上げないと事務所費も事務員の給料も出ない。年間〇本はやらなきゃダメなのよ」と何回も言われた。そして何年かたって「俺引退するから後カズモをやらない？」と言われて、僕はカズモをやめました。(笑い)

渡辺 先日カズモへ行つて、業務日誌を見せて貰った。座談会、イベントなど小さなものをたくさんやっている。

堀川 それはあんまりお金にならない仕事ですね。

渡辺 川村(尚敬)さんが言うには、どんな小さな仕事も取つてくるとやつたそうです。会社経営に一所懸命だったことがわかります。

長沼 しかし、晩年は日韓中に熱心だったのではないのでしょうか。王山海さんのメール(別掲)をみると、大山さんの是非やらなくてはいけないという情熱をひしひしと感じます。

渡辺 中国との合作の企画もあったようです。

堀川 人間体調が悪くなると何もかも億劫になるでしょう。大山さんはならなかったのでしょうか？

河野 ジャーナリストの情熱がありましたね。3・11の後僕は気仙沼に行きましたが、大山さんから「どうしても行きたい。行き方を教えてくれ」と電話があった。「気仙沼の駅前にビジネスホテルがある。そこまでは列車で行ける。そこからは地元のタクシー

「をつかまえて、1日何万円かで交渉して、後は歩く」といって教えた。するとその通りに6月末か7月に行った。そのときは相当悪かったはず。野次馬ではなくて日本に起こったこの大きな悲劇を自分の目で確かめておきたかった。

前川 僕が知っている大山さんからはそんなところが見えなかった。僕は放送人の会へ入ったのは新しいのですが、入ると「前川ちゃん日韓中やってよ」と言われた。「それってなんですか？ やってよ、だけじゃわかりません。昔のADじゃないんだから」と答えましたが、昔は「やってよ」で済んだ時代があった。だから、自分で気仙沼へ行ったり、企画をあれこれ売り込んだりする姿は見えていない。かつては大雑把だった。**令野** 現場の人なんだ。緻密に計画をたてて、人にきちんと説明して人に命じるより、自分があつと動き回って、人をつかまえて「ちょっとやってよ」とやる。

河野 死ぬ直前まで放送人だった。

前川 テレビ原人と言っていた。

堀川 やはり放送人らしい放送人だと思ふ。あんな放送人はこれからなかなか現れ難いと思う。

伊藤 そろそろ紙数が尽きます。これくらいで終わりにしましょう。

大山勝美氏お別れの会

日時・2月9日（月）午後5時

場所・如水会館（千代田区一ツ橋）

会費・1万円

永遠に偲ぶ思い

永遠の遺憾の思い

大山勝美先生への追悼の言葉

王占海

「日本放送人」顧問大山勝美先生が10月5日に逝去されました。日本の「朝日新聞」「読売新聞」で訃報が掲載された。大山先生の逝去を知り、非常に驚き、遺憾の気持ちで一杯です。大山先生は9月15日、18日、横浜で開催された第14回日韓中韓テレビ制作者フォーラムに参加され、その20日後に逝去されました。非常に驚いておられます。私にとつて残念なことは、今回のフォーラムに参加できなかったことで、大山先生とお会いできず、去年話をした日中友好をテーマとしたドラマについて、もっと詳しいお話ができなかったことです。今年のフォーラム開会後、大山先生とフォーラムについて意見を交換しました。私は日本語がわからないので、直接は交流できませんでしたが、友達を仲介として電話で連絡を取りました。私の意見をはっきり伝えようとして、評論を書きました。友達に翻訳してもらってから送ろうと思っていまして、まだ翻訳が終わっていない時に大山先生は逝去されました。ですから、私は悔しい気持ちで一杯です。この評論が天国の大山先生に届くように願っています。

大山先生は1932年に中国東北部で生まれになり、幼少期を中国で過ごされま

した。1957年に早稲田大学を卒業。同年TBS（東京放送）に入社、ドラマの監督と制作一筋で務められました。社会的に影響をおよぼすドラマを監督、制作し、何度も芸術賞を受賞されました。TBSドラマ開発事業の功労者と言われております。1992年退職してからも、制作会社を設立し、テレビ業界で活躍しておられます。功績が認められて、1994年紫綬褒章を受章されました。この賞は日本天皇陛下から科学芸術分野で貢献のあった人に贈られます。2003年には勳四等旭日小綬章を受賞されました。大山先生は日本のテレビ業界に大きな影響力を与える人物です。日本のテレビ業界の方々に大山先生と友達であることをお話しすると、その方々から尊敬の念で見られます。

晩年の大山先生は個人的な威信で、日本放送人の会を設立されました。この協会はNHKと各民間テレビ局が集まって、評価表彰・交流・検討活動を行っています。その後、日中韓テレビ交流を推進し、日中韓テレビ制作者フォーラムを設立されました。このフォーラムは、中国テレビ芸術家協会、日本放送人の会、韓国テレビ制作者連合会の共催で、参加国が順番で主催するものです。毎年100人以上が参加し各国から推薦された優秀な番組を鑑賞し、交流検討します。日中韓テレビ制作者フォーラムは今年までに14回開催され、日中韓のテレビ協会が交流する土台となっています。今年の春、大山先生は大山勝美基金を設立、50

00万円を寄付されました。この寄付は日中韓テレビ制作者フォーラム及び日本放送人の会が優秀な作品として評価したものに對する、活動費用及び賞金として使われます。

大山先生は日中韓テレビ制作者フォーラムを重視されており、今年のフォーラムへの参加者からの話を聞くと、開会式で大山先生は心を込めた歓迎の言葉を述べ、歌もお歌いになりました。このことから見ても大山先生がこのフォーラムについて大きな関心を持っておられることがわかり、日中韓テレビ関係者が集まる機会を非常に喜んでおられました。

また、日中韓テレビ制作者フォーラムが民間社会連携の土台になっています。常に日中韓三国友好関係を中心テーマとする作品制作を主張しています。2013年に大山先生が企画した作品である「希望の翼」あの時、ぼくらは13歳だった。日本が韓国を占領していた時期、残酷な戦争の中でお互い助け合って命より大切な友情を育んだ13歳の二人の日本人と韓国人の小学生が、老人になってから再会し、そこから日韓両国の文化交流が始まる物語です。今年のフォーラムに日本放送人の会が推薦したドラマは「基町アパルト」で、このドラマは日中国交が回復した際に日本へ帰国した中国日本人残留孤児が、言葉も通じず、生活習慣も異なり、社会になかなか溶け込めず、家庭でも気持ちが打ち解けられないというように、戦争が国民を困窮させてい

ることを批判している。平和的な発展を呼び掛けています。

大山先生は幼少期に残酷な戦争を経験したことがあるので、日中韓の平和的な発展を望んでおられます。今年のフォーラム開会式での歓迎の言葉として「安倍首相が靖国神社を参拝して以来、歴史問題が正しく認識されなくなっています。集団自衛権などの問題では中国と韓国は焦燥と憤慨の気持ちを持っています。中国と韓国と日本の間には冷たい風が吹いています。このような時期に横浜で第14回日のフォーラムを開催することは特別な意味があります。フォーラムの20年に渡る友情と信頼関係で国家間の冷たい風は春の風に変わる。」と述べられました。大山先生は日本で大きな影響力を持つテレビ芸術家で、平和と友好を望み、「冷たい風」が「春の風」になるように努力されています。

今年9月9日、中国日報社と日本の言論NPOが共同実施した1年1度の第10回「中日関係意識調査」によると、両国の人民は日中関係を重視するが、現状の関係を許容する人は10年来で最低の数値である。中国人民の日本に対する「印象が良くない」と「あまり印象は良くない」の比率が86・8%、日本人の中国に対する「良くない」と「あまりよくない」の比率は93・0%であった。でも、日中両国の人民は民間交流は大事だと考えている。中国64・4%、日本63・4%の人民は民間交流が両国関係の改善・発展に「重要」「まあまあ

重要」だと考えている。大山先生のご逝去は日中韓テレビ業界にとって残念な出来事であるだけでなく、日中韓の国民にとっても非常に残念なことだと思っています。

大山先生は中国テレビ芸術家協会の友人です。1986年に協会は大山先生ご夫妻（奥さまは女優、渡辺美佐子さん）を招待して、お二人に講演していただきました。私がつきり覚えていたことは、大山先生が映画とドラマの撮影の相違を述べられたことです。例えば何人かが空港で飛行機の着陸を待っているシーンでは、映画ではスクリーンが大きいので、飛行機は遠くから徐々に近づき着陸するが、テレビではスクリーンが小さいので、出演者は遠くから来た飛行機を指さして「見て、飛行機が来た」というようになります。渡辺美佐子さんは実演しながら、出演者の化粧の問題について述べられました。実績や経験をお持ちのお二人の講座は、また発展途上で人材・経験を不足する我が国のテレビ協会の発展を支えてくれました。今年のフォーラム開会式での歓迎の言葉として「我々の20年に渡る友好交流による信頼と友情は言葉では表すことができない」とも述べられました。

2013年5月、私は大山先生に誘われて10月に無錫で行われた日中韓テレビ制作者フォーラムに参加しました。大山先生は中国と日本が合同でドラマの制作を進めることを相談したいと思っておられました。が、10月に入院されたため参加できませんでした。11月、私が会議で来日したとき、

大山先生とお会いしました。大山先生が私のホテルまで来て下さり、日中で制作するいくつかのドラマのテーマについての話ができました。帰りは私が大山先生を地下鉄の駅までお送りしました。大山先生が一步一步よろよろと歩いて、エスカレーターにお乗りになる姿を見て、心が痛くなりました。また、80歳の老人が健康ではない体で、地下鉄に乗って、日中友好のため奔走する姿を見て、尊敬の念を抱きました。これが大山先生にお目にかかる最後になりました。大山先生ご逝去の知らせをお聞きしたとき、エスカレーターに乗って行かれる姿が思い出されました。この場面が私に大山先生を永遠に想ふ思いにさせます。永遠の遺徳の思いは、日中合同でドラマが計画途中で未完成であったことです。

ここで、私と私の友人である駐日中国使館文化処の文化担当趙立先生、中国新聞週刊（日文版）の編集長劉林先生、早稲田大学客員教員何繼紅先生、TVプロデューサー朱近先生、東北師範大学李在榮先生、北海道大学伝達研究大学院留学生王梓安さんが一緒に大山先生のご逝去を心からお悔やみ申し上げます。渡辺美佐子さんと親族の皆様によりしくお伝えください。

大山勝美さんの死を悼む

関佳史

大山勝美さんの結果的に遺作となった「希望の翼」をプロデュースした。番組はテレビ神奈川の開局40周年記念特別番組で、tvkのOBである寒河江正さんの原作を2時間ドラマにした。日韓の友情物語を韓国KBSと共同制作したが、制作については概ね大山さんの構想によるものだった。ロケ現場でチョコレート食べて頑張り、韓国では点検して現場での演出を指揮されていた大山さんを思い出す。

2013年3月に放送された番組は、その後「放送人グランプリ」、「民間放送連盟賞」を授賞。10月の「日韓中テレビ制作者フォーラム」では中国・無錫で、ダイジエスト版が上映された。戦中の出来事を描いたため、日韓中での歴史認識の違いで様々な思いがあったはずだ。テーマとした国を越えた友情と市民レベルの文化交流は、各国に伝わったと思う。しかし、韓国KBSでは、現在でも放送されていない。

2014年6月には、カナダのバンフ・テレビジョン・フェスティバルに日本代表の3作品の一つでノミネートされた。授賞はできなかったがアジア以外でも評価を受けた。大山さんはこの事をたいへん喜ばれ、11月の国際エミー賞を楽しみにされていた。しかし、国際エミー賞はノミネートされなかった。放送後に、このようにたくさん

んのが起こる番組は、私の経験では初めてのことだ。

2014年に入って、大山さんは、ある大物作家をホストとした骨太のトーク番組を企画する。2015年春からtvkでの放送を目指して準備を行っていた。毎月数回の打ち合わせを行っていた。ある日、約束の打ち合わせに来ない。事務所に問い合わせたところ、大山さんが亡くなられていた。直前まで働いていた大山さんの気持ちの強さに脱帽であった。我々に営業力があったら、この企画を世の中に出す事ができたはずだ。残念でならない。

大山勝美さんと仕事をしたこと、50歳後半の自分が大きく影響を受け、変わっていくことが楽しかった。番組制作での苦労やトラブルは、国際共同制作にはつきもの。困難がいくつかあったが、大山さんと一緒に乗り切ったことが大きな自信になった。大山さんに感謝し、遺志を継げるよう頑張る。

2015年は戦後70年、「戦争」を若い人たちに伝えようという大山さん、そしてわが先輩の寒河江さんの執念。私の世代に何が出来るのか。番組を使つての大学での講義、イベントの構築などできることを少しでもやらねばならない。それが、私ができる大山さんへの追悼だ。『テレビ神奈川・取締役営業本部』

第48回放送人句会

◇平成27年1月6日(水)

◇於：赤坂・友屋

◇選者：星野高士

◇出席：伊藤健郎、荻野慶人、鶴橋康夫、豊田まつり、新村もとを、西川阿舟、橋本きよし、林備後、堀川とんこう、森治美(11名)

◇不在投句：山泉ぼん太、

◇兼題：春煮、雑煮、寒の水、床山(業界用語)

横須賀線春煮美人と向き合へり 阿舟
野は晴れて絵巻を洗ふ寒の水 とんこう
正月や床山待ちに鏡前 治美
古井戸に配りし雑煮雪積もる とんこう
寒の水そしてボケツトウイスキー 視郎
命日の墓に吞ませし寒の水 治美
今日よりは水追水も寒の水 阿舟
浅間大さざなみで雑煮かな きよし

【星野高士選】

雑煮椀障子の外は京格子 きよし
床山にかつらを置いて賀詞を述べ 視郎
水切の石よく跳ねる寒の水 もとを
春煮きてや草臥れのなしとせず 備後
床山に迎春の髪結はせけり ぼん太
地区に又離農の噂雑煮食ふ ぼん太
二日酔ひ朝飯抜いて寒の水 慶人
寒の水足るを知らざる己が影 康夫

【会員互選】

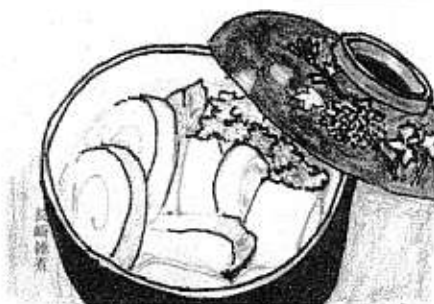
床山に島田頼みて二日かな 治美
念じては結願に汲む寒の水 ぼん太
馬屋にも供へし彼の日雑煮食ふ とんこう
故地故山駅前食堂味雑煮 ぼん太
床山の雑煮が冷めて暮降りる きよし
また逢うて正月小袖の別れかな 康夫
父母のまた折合はぬ雑煮の具 まつり
寒の水般若心経唱えつつ 視郎
古希過ぎて何の出世ぞ雑煮煮 備後
信濃なる寒九の水の甘きかな もとを
床山の腕操す新春時代劇 阿舟
母思ひ餅を小さく雑煮かな 治美
苔寺の苔の浄土や寒の水 きよし
床山に歳暮きまりのその銘酒 まつり
春煮きて何するでなく街にあり 備後
星あらば星を映して寒の水 備後
床山の春煮に掛ける大手拭 康夫
愛憎も枯れて酒れがれ寒の水 阿舟
丸餅の入りたる雑煮懐かしき 視郎
床山で油のやうな雑煮をだし とんこう
老婆の春煮にさがすほめ言葉 備後
新しき柄杓に掬ふ寒の水 まつり
北よりの歳旦の声ただ雪と

寒の水くくりと胃の腑ありし事 ぼん太
地中来てハケより寒水走り出づ 阿舟
柝の音に春煮の客が静まりぬ きよし
拗ねながら着付けをへたる春煮かな もとを
息とめて帯を結めたる春煮かな もとを
小島にも汲み水道の寒の水 まつり
まだ形ならず春煮のおつむてん 康夫
灯明るく吾娘へ春煮の糸を抜く ぼん太
抱き散らしわずかな開の春衣裳 康夫
嘘つかん誓ひて一氣に寒の水 慶人
それぞれに雑煮を祝ふ核家族 慶人
雪谷の芸妓ロケバス床山へ 慶人

雨模ねて裾の乱れし春煮かな 星野 高士
寒の水主膳六腑の志
昼酒は一杯と決め寒の水
雑煮食ふ雨から雪となりし窓
床山と人情話し雑煮喰ふ
石段を止まることなき春煮かな
床山はみちのく訛り寒復習

次回放送人句会
◇3月11日(水)
18・00頃から
◇場所：赤坂・友屋
◇兼題：鳥帰る、菜の花、剪定、衣袂合せ
(春の手語を使って)

寒の水くくりと胃の腑ありし事 ぼん太
地中来てハケより寒水走り出づ 阿舟
柝の音に春煮の客が静まりぬ きよし
拗ねながら着付けをへたる春煮かな もとを
息とめて帯を結めたる春煮かな もとを
小島にも汲み水道の寒の水 まつり
まだ形ならず春煮のおつむてん 康夫
灯明るく吾娘へ春煮の糸を抜く ぼん太
抱き散らしわずかな開の春衣裳 康夫
嘘つかん誓ひて一氣に寒の水 慶人
それぞれに雑煮を祝ふ核家族 慶人
雪谷の芸妓ロケバス床山へ 慶人



ラジオのページ

ビートシーガー追憶特集

「野に咲く花は少女の胸に」を制作して

FMラジオネット局長 浮田周男

野に咲く花は 何処へ行った

遠い昔の物語

野に咲く花は 少女の胸に

そっとやさしく 抱かれていた

(作詩作曲 ビート・シーガー 訳詞

忌野清志郎)

1960年代前後にビートシーガーをはじめジョーン・バエズ、ボブ・ディラン、PPM達によってアメリカで起こったモダン・フォーク・リバイバルは、数年後我が国の若者たちに多大な影響を与えブームが訪れました。こうした時代背景は、私が昭和37年ラジオ関東に入社した頃と時期を同じくしていたため、その種の音楽番組の制作に携わるチャンスを得ました。

当時高校生だった森山良子さん出演の「フォーク・カプセル」、広島から上京してきた吉田拓郎さん出演の「ニュー・ミュージック・ムーヴメント」等がそれです。あの時代に始まったフォークソングのムーブメントは70年を越える頃からニューミュージックと呼ばれる時代を経て、現在のJ-POPへと発展して来ていることは周知の事実です。

私はその後レコード会社、フリーデイレクター歴任の後、現在はFMラジオ番組を制作する会社「Jアラネット」を主宰しています。

昨年1月27日、アメリカのモダンフォークミュージックのビート・シーガーが94歳で亡くなりました。民謡の研究者、作詞作曲家、演奏者であったことに留まらず、環境活動、人権、平和を世界に問いかけて来た人物であった彼の死を悼み、オバマ大統領は偉大な足跡を称えてステイツメントを発表しました。

私は株式会社エフエム東京 延江浩プロデューサーと共に、ビート・シーガー追憶番組を制作しようと考え、フォークシンガー小室等さんに番組出演を依頼し快諾を得ました。

生前の彼を知り、歌手人生に多大な影響を受けた小室等のビート・シーガーの音楽との出会いのこと、そしてビート・シーガーを敬愛してきたゲスト各人と共に、かつて音楽が若者達と平和を呼びかけた時代を振り返りながら、現在のウクライナ問題、集団的自衛権を巡る状況にふれ、戦後70年をむかえる我が国の在り方等を見つめるという番組の企画案図を考えました。

タイトルは彼の代表曲である反戦歌「花はどこへ行った」の歌詞「野に咲く花は少女の胸に」と決め、番組内容は以下の構成で進行することにしました。

「天使のハンマー」「ターニン・ターニン」「ウィシャルオーバーカム」等、ビート・

シーガーの音楽は60年代後半から、日本を含めた世界の人々の心を捉え、歌い継がれてきています。

ゲストには、やはり歌手人生のスタートを決定つけられた森山良子をはじめ、当時のニューヨーク、グリニッジ・ビレッジを知る東京大学大学院教授のロバート・キャンベル、そしてサラエボ(1984)、カルガリー(1988)と二つのゴールドメダリストに輝いた女子フィギュアスケート選手カタリナ・ビットが、1994年のリレハンメルオリンピックの氷上を如何にして「花はどこへ行った」を選んだのか、また奇しくもこの音楽の原曲はウクライナ民謡からヒントを得て彼が作ったところから、現在の政情不安なウクライナ問題についても語っています。

また、生前のニューヨークでのビート・シーガー自身のライブ、小室等のアルバム「ニューヨーク24時間漂流コンサート」に記録されていた彼へのインタビュー、1960年代後半、新宿四丁目のフォーク集雲等の当時の貴重な音、森山良子、忌野清志郎、小室等十仲井麗市十梅津和時十谷川賢作の生演奏の他、ジャズトランベッター近藤等則が彼の声を演じ、問いかけます。

全体のプログラムはFMならではの「音楽・三畳床」で構成、戦後70年を目前に改めて平和について考える内容になっています。

この番組はFM東京で昨年の5月28日に放送された後、民間放送連盟ラジオ番

組・教養部門に出品され、優秀賞受賞の榮譽を得ました。

私は昨年、ラジオプロジェクト発足を機会に「放送人の会」に入会させていただきました。

ラジオが元気を失っている感がある今、ラジオプロジェクト発足を機に、「音楽」・「言葉」で若者たちが元気づけられた時代を思い起こしながら、今再びその力が呼び起こされれば幸いと考えます

ラジオプロジェクト活動報告

民放連ラジオ委員会活動状況取材

「ラジオの現状はどうなっているのか？」を探索。昨年の11月21日、ラジオプロジェクトの松尾羊一顧問をはじめ執行メンバー5人は民放連音声メディア部の渡辺部長に面会し情報収集を行いました。

渡辺部長からは「民放連ラジオ委員会の取り組みである「ラジオ媒体価値の向上対策」「デジタル時代の音声メディア対応を中心として現在ラジオが直面しているテーマについて活動状況の説明がありました。」

「ラジオ媒体価値の向上対策」に関しては全国の民放ラジオ100局による統一キャンペーン「ラジオがやってくる」を実施し、「若者を中心とするラジオ離れ」への取り組みとして毎年12月から3月3日(耳の日)の期間に各局のアナウンサーやパーソナリティが中学や高校、大学を訪問し若年層にラジオの魅力や役割をPRしたとの説明が

ありました。

一方、NHKとの共同ラジオキャンペーン「ラジオきいてみた」をH25年は名古屋地区で、H26年は東北地区で実施したとの報告がありました。

これは中高生(初めてラジオに触れる世代)とその親世代(かつてラジオを聴いていた世代)をメインターゲットに番組展開、イベント展開、WEB・広報展開を中心にしたキャンペーンだそうです。

さらに「デジタル時代の音声メディア対応」についてはインターネットでのラジオ聴取「Radio」を進展させ、昨年4月からエリア制限なしで全国の民放ラジオが聴ける「Radioプレミアム」をスタートさせ、有料会員(月額350円)が3カ月で10万人を超え、さらに増えているとの報告がありました。さらに民放連のホームページ上にラジオ各局共通のウェブサイトを「Radio」を開設しラジオ各局の情報を入手し易くするなど、インターネットにラジオが積極的に対応していく方策を探っているとのことでした。その他「中波ラジオ局のFM補完中継局の動向」や「V-Lowマルチメディア放送の動向」等ラジオ界の現状を詳しく報告していただきました。

以上の活動報告を参考にラジオプロジェクトとしてラジオの活性化に向けて今後どのような取り組みが可能かをメンバーの皆さんと考えていこうと思います。(田中秋夫)

パーソナリティーはつらいよ

フリーアナウンサー 相本芳彦

辞書で「personality」と引けば「個性」「性格」転じて「有名人」「名士」「タレント」などと出ています。深夜放送時代は「DJ」、ワイド番組が始まると「パーソナリティー」、さらに90年代以降のFM局からは「ナビゲーター」という呼称も生まれました。ラジオパーソナリティーとは、どのような役割を担っているのでしょうか。

私は、局アナ、フリー合わせて35年間アナウンサーを続け、そのほとんどでラジオパーソナリティーを務めてきました。経験でしか申し上げられませんが、パーソナリティーは、私生活をも含めた全人格をマイクの前にもさらけ出し、それによってリスナーの共感(あるいは反感)を得る役割を担うべきだと思っています。趣味、趣向、思想、信条あらゆる個性をリスナーにぶつけ、またぶつけられながらお互いに成長するべきだと考えています。

現在、私は理解あるコミュニティラジオで、かなり好き勝手にさせてもらっていますが、一般的には「パーソナリティー受難の時代」と言っても差し支えないでしょう。まず、「パーソナリティー育成の余裕がない」のです。ラジオ局は長期的な売り上げの低迷による人員削減と経費節減で、喋り手はむしろディレクターや営業マンや技術マンを自社で育てる時間を惜しみ、多くを外

注に頼りがちです。さらに、リスナーもパーソナリティーを育てる余裕を失っているようです。

次が「コンプライアンスを意識した過剰な自主規制」です。この10年余り、放送してクレームや訴訟になるくらいなら最初から言わなければ良いと、ほぼ全ての局がプロデューサーや編集担当者からパーソナリティーに様々な自粛を促しています。まさに「角を矯めて牛を殺す」の譬えそのままだです。

フリーになって毎日八目で様々な局を見る事ができるようになりました。かつて熱い思いで番組を作ったであろう経営陣は、数字と体面のみを追うのではなく、次代を担う人材の育成に尽力して頂きたいですし、さらには、ラジオ、テレビの創成期にあった「熱情を持ったかがわしさ」を忘れないうで欲しいと切に願うのです。優秀生ばかりでは心に届く番組は作れないと思うのです。

「ラジオの生放送は不滅です」
柳クリン・ドルフィン 代表取締役

江川雄一

1925年にラジオ放送は始まった。今年は、90周年にあたる。

ブロードキャスティング、不特定多数の受け手に向けて音声を送信するラジオ放送は、現在に至るも聴覚のみに訴えるという形式は変わっていない。

演者(パーソナリティー、MCなど)のキャラクター、音楽、情報の3要素をメインに、主として生で放送されているのも、昔と変わらない。そして時代を反映した、報道、エンターテインメントであることも。

テレビなど映像メディアが、モノクロ、カラー、ハイビジョン、4K・・・と受け手に提供する情報が圧倒的に増えつつたのと対照的である。

送り手からの情報が増えれば増えるほど、受け手がイメージを膨らませる余地が少なくなるとすれば、ラジオの特性は、その原始的ともいえるシンブルさが説得力をう。マイクの前の私、ラジオの前のあなた。

リスナーに、トークの内容でも、かけた楽曲でも、その生放送で何か一つ共感してもらえたら、の想いでラジオ番組は制作されている。ラジオで言っていたけれど、ラジオで聞いた曲で・・・とリスナーの間で話題になればうれしい。

私は、1970年に文化放送に入社し、深夜放送のディレクターをはじめ、現在に至るまでラジオ番組の制作を45年間欠かさず続けてきた。ラジオの歴史の半分を番組作りで過ごしたことになる。

59年の天皇、皇后両陛下のご成婚、5年後の64年東京オリンピック・パラリンピックは、テレビの普及に弾みをつけた。オリンピック後の不況もあって、ラジオが電波メディアのメインから、退いたきっかけとなった。その頃ラジオの世界に入った。

放送人グランプリ2015の

ノミネートのご準備をお願いします

今年もまたく放送人が選ぶ放送人の賞「放送人グランプリ」の季節になりました。

●推薦投票（ノミネート）の締め切りは3月31日（火）必着です。投票用紙は後日お届けしますが、それまでに誰を推薦するかご準備をお願いします。

●対象は、原則として昨年2014年4月から今年3月までのあいだの放送・活動です。中央、地方、地域を問わず、番組制作での役割や職種を問わず、また放送局、制作会社、フリーも問わず、制作活動のジャンルも限定しません。番組制作・報道、調査研究など放送文化に関わる活動で、顕著な業績を挙げたと思われる個人またはグループをグランプリとしてご推薦ください。ほかにもさまざまな活動で放送界に新風を吹き込んだ人や団体に奨励賞や特別賞が贈られます。

●4月上旬の選考委員会で内定、理事会で承認後、5月16日（土）放送人の会総会の日に贈賞式を行います。

●昨年度の受賞者は次の通りです。

グランプリ「時は立ち止まらない」制作チーム **準グランプリ** Nスペ「終わりのなき被爆者の闘い〜被爆者と医師の68年」制作スタッフ **優秀賞** 土曜ドラマ「足尾から来た女」制作スタッフ、ラジオ報道特別番組「原発作業員が語る2年」森崎俊雄、**企画賞**「Youは何しに日本へ？」制作チーム **奨励賞**「離島ナース 医師のいない越冬を守る」制作スタッフ **特別賞** 倉沢治雄、宮崎賢（敬称略）

番組制作にかかわる人数も少なくなつたらしく、3時間の生放送を一人で、ミキサー、ディレクター、作家をこなし、学生アルバイトのAD1名の助けを借りて制作した。その頃バーンナリティは、今は少し違った道を歩み存在感を示していられつしやるお二人、みのもんださんと落合恵子さん。二人とも、制作サイドの意図や期待をこえて、それ以上のパフォーマンスを番組で見せてくれた天才だった。

2010年代に入つて、インターネット革

命は産業構造を一変させ、メディアをめぐる環境は厳しさを増している。ラジオも厳しい。

欧米では、テレビは見ないがラジオは聴くという人もいる。しかし日本では、ラジオ自体を持っていないという人もいる。環境的に不利な立場にあるようだ。原因は、様々なかもしれないが、番組制作者が初心に帰って良い番組を作っていくことに尽きるところ。

第38回 名作の舞台裏

テレビ朝日開局55周年記念番組

時は立ちどまらない

（2014年2月放送）

日時・1月24日（土）13時〜16時半

場所・横浜情文ホール

ゲスト 中井貴一（出演）山田太一（脚本）

堀川とんこう（演出）内山聖子（制作）

司会 渡辺純史（放送人の会）

渡辺 まず、印象に残っていることから……

内山 震災の現地へ山田先生とシナリオハ

ンディングに行きました。宮古から沿岸を

遠く距離走って、車のなかで案内してくれ

る人の子どもの頃のいじめの話や下品な話

を山田先生はせつせとメモにしておられた

中井 歌手やお笑いの人と違って役者は被

災地のために何にもできない。この話が来

たとき「これが役者のできることだ。傍か

ら見た震災でなく、被災者の日常を演じる

ことは役者の使命だ」と強く思いました。

堀川 内山さんの剛腕でこれだけの豪華キ

ャストが揃い、全員が揃った初日、トップ

シーンを撮りました。いろんな人がばらば

らにいろんなことを言うのを、うまくひと

つのシーンにまとめるのは難しかったので

すが、これからやるぞ、とわくわくしまし

た。

山田 シナリオ・ハンティングでいろんな

エピソードを聞きました。中井さんの台詞

にある山羊の乳を口に口をつけて飲んだ

時、僕がそこに疎開していたら死ぬほどい

やだったろう、これは書きこいと思いまし

た。なにしろ震災は凄いです。それを描いては

ドキュメンタリーにかなわない。見る人は

ひどい状況のなかでのちよつとした美談に

感動する。そんな話をドラマにしてもバカ

にされるだけだ。しかし、ドキュメンタリ

ーでできない被災者のマイナス面、ネガテ

ィブな面はドラマなら描ける。中井さんの

台詞の「津波に遭つたらなんでも許される

のか」「どうしよう人の身になれるか」などは、

ふつうのドラマにもない。しかしそれがな

いとどうしても綺麗になる。橋爪さん

の「ハグしたい」はドキュメンタリーでは

ないでしょう。妻を失い、お酒も飲めな

い、そりゃ誰かをハグしたくなります。「ハ

グしたい」は流行らないかなと思いました。

渡辺 このドラマが生まれるまでは？

内山 たしか震災をテーマにということ

山田先生から2年ほど前に出たと思います。

一昨年の1月には「二つの家族」というキ

ーワードが先生から出ました。キャステイ

ングを始め、監督にもそのころお話ししま

した。ホンができたのは7月です。

渡辺 山田さんは役者が決まっていると書

き易い、とのことですが……

山田 そうです。俳優さんに励まされて書

いているところはあります。少々長いけど

中井さんと柳楽さんならやってくれるたろ

う、とか。

渡辺 中井さんは「ふぞろいの林檎」のと

きから山田さんと長い付き合いで……

中井 「ふぞろい……」のメンバーはみんな

山田学校卒業だと思っています。あのころは無名でロケの最中おじさんに肩を叩かれて「何やってるの?」「ロケです」「ふーん、誰が出てくるの?」僕のこと知らないようなので「時任三郎と柳沢慎吾です」「そう、よろしく」といって(笑)

最初の頃は余計なことをするのが苦痛だと思ってた時期もあります。それを超えてきて落としたのがいいのだと理解するまでには経験が必要だと思います。今回はなるべく何もしないで地方の人間を生かされるのが課題でした。

堀川 山田さんのホンには危ないところがあって「絆」とか思いやりは復興の力になる」という社会通念を疑う。「思いやりは本当に無条件に美しいのか」と言う。被害にあっていない人間が言う絆や思いやりは本当に被災者の励ましや慰めになっているのか、という問いかけが実はこのドラマにはある。山田さんは「思いやりは美しい」といった社会通念をドラマの中でチェックし、そんな通念にはこんな弱点、罅がある、と指摘してしまふ。うまくいけばいいが、失敗す

ると何と言われるか、ちよつと心配し、踏み外さないようにと考えた。

山田 被災者のために何かをしたいという気持ちには僕にもあります。体育館が近くにあったら何かを持って行ったでしょう。それは貰う側にはどうなのだろう。ドラマでは善理で付き合っていた関係ですから、善意は助ける方の「何かせずにはいられない。だからさせてくれ」になつてしまふ。橋爪さんは乱暴に切らなければと誠意を茶に暴れる。「俺の家は全部流された。家族も流された。それに比べれば一部屋こわれるくらい何だ」と書いてやつとバランスがとれると思ひました。

渡辺 そのことが橋の上の7人の会話にうまく出ていました。

中井 こんな台詞、言つていいのかなあと悩みました。東京にいと被害に格差があることは考えてもみなかった。その格差を乗り越えるために言わなくてはいいけない。本場に役に入つていないと言えない台詞でした。

山田 中井さんと柳場さんの殴り合いのシ

ーン。脚本には「殴り合う」としか書いていません。素晴らしい演技で嬉しかった。

堀川 凄く乱闘を予想して現場に殺陣師を呼んでいた。(笑)

中井 最初の顔合わせのとき山田先生から「この作品のテーマはハグです」と言われ、このシーンでは最後はハグで終わつてくたさいと言われました。柳場さんと「子どもに戻つたらどんな喧嘩になるだろう」と相談し、最後のハグから逆算して「つねろう」と決まりました。殴るシーンのときはお互いに「本気で殴るよ」と目で合図してあのシーンになりました。

山田 被災地には「あの日から時は止まっている」という人が多かった。しかし、時は立ち止まらない。それを書きたかった。

中井 山田先生のホンには実に無駄な台詞が多い。柳葉「そこ」で、じつちゃん「橋爪」で「ここ」で。(笑)「ふつうこんな脚本ありませんよ。しかしこの無駄がなくなると台詞のリアリティーが消え、山田作品ではなくなるんですね。」

以下略 (文責・伊藤雅浩)



中井貴一氏



山田太一氏



内山聖子氏



堀川とんこう氏



司会・渡辺純史氏

日韓国際シンポジウム

「日韓中制作者フォーラムは歴史問題をどう超えるか」

昨年の日韓中テレビ制作者フォーラム横浜大会では広島放送局が制作した「基町アパー」をめぐって韓国と中国が異論を提示し、議論が沸騰しました。しかし、時間の制約があり議論は歴史認識の溝の深さの確認で終わりました。

東アジアで共有できる番組制作とは?本シンポジウムではナショナルな単位を超えた番組づくりのあり方を模索します。

日時:3月21日(土) 12:30~17:00

場所:上智大学12号館301教室

(JR・東京メトロ四谷駅から徒歩5分)

プログラム

「基町アパー」上映

問題提起・渡辺純史(北海道大学)

パネル討論

大橋守(NHK広島放送局)

河野尚行(放送人の会)

ソン・イルジョン(韓国MBC)

音好宏(上智大学)

玄武岩(北海道大学)

司会・鈴木弘貴(十文字学園女子大学)

全体討論

主催・北海道大学大学院メディアコミュニケーション研究

院 東アジアメディア研究センター、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所

共済・協力・放送人の会、韓国PD連合会

第17回 放送人の世界

杉田成道と人と作品

日時・2014年

12月12日(金) 18:00~21:30

13日(土) 14:00~19:00

会場・上智大学10号館講堂

聞き手・今野勉

【上映番組】

12日・

「北の国から(第4話)」(1981年)

「北の国から2002 遺言(後編)」

13日・

「1970ぼくたちの青春」(1991年)

「失われた時の流れを」(1990年)

「若者たち2014(第1話)」

今回の会場は昨年と同じく音好彦教授の協力で上智大学。定員200名の階段教室の正面に大きなスクリーンがあり、映画館で映画をみている気分である。参加者は1日約80名、うち「放送人の会」関係者が約20名で、あとはほとんど学生である。

【北の国から】

杉田「北の国から」といえば杉田演出と言われますが、私が演出したのは第4話と単発ドラマです。連ドラは演出が毎回交代していました。

ドラマのスタートはCXが視聴率最低のときで、局の顔になる柱のドラマが必要でした。想を練り、当時NHK大河ドラマで

の衝突で北海道に逃避していた倉本聰を担ぎ出し、北海道を舞台のオールロケで「自然とともに生きる人々」の物語を紡ぐことになりました。文明の中心「東京」の「金」に頼る消費生活に対抗、挑戦する「人」が本位の「自然生活を描くこと」で、文明対自然、中央対地方の存在を主張しようとした。父と二人の子どもの生活を柱に、そのリアリティーを追及するストーリーで構成し、次第に事実とオーバーラップする「人生ドラマ」の傾向になって行きました。ドラマの設定は大きなウソですが、生活描写は小さな真実を積み重ね、殊に子ども二人の成長過程には作者もスタッフも引きずられました。その分一つ一つのシーンの描写に力強さが加わり、リアルな説得力が増しました。

北海道の大自然の描写には苦労しました。挿入される野生動物のカットは何日か粘って撮ったし、最終話「遺言」のトド狩りの二人(漁師の親方唐十郎)が流水に帰還するシーンの撮影は文字通り命懸けの冒険でした。氷が割れて海に落ちたら、助ける方法がなく確実に死にます。気象台と綿密に打ち合わせを繰り返し、撮影準備も万全を期してようやく事故なく無事撮影終えました。

ドラマの反響が凄くなり、放送終了後電話が集中し、その対応に時間がかかりました。手紙は封書が多く毎回2000通くらい届きました。多くは自分の人生を語る内容で、視聴者がドラマを自分に置き換えて

みていることがわかりました。ドラマ作りの醍醐味です。

【1970ぼくたちの青春】

杉田 同期の仲間が編成部長のときアメリカングラフティーズをやるうと作ったものです。私は豊橋の時習館高校卒。進学校の不良で、ノンポリ。ドラマのなかの4人ともモデルがいます。「番町」は在日朝鮮人で北朝鮮へ帰り、30年後の同窓会に「どうしても行けない。自分も国のため戦っている」と手紙をくれました。「陸送」は事故死もオ



左・今野勉氏

右・杉田成道氏

チンチンの骨の話をまとめて実話です。自分の好きな作品の一つで、サーモンとガーフアングルが流れ、時代を感じます。今では自主規制がきびしく、高校生がタバコを吸うシーンは撮れませんね。

【若者たち2014】

杉田

脚本の武藤さんは30代で若い。これまで

のとタッチが違う。しかし今の世の中になぶつけないものがある。

人間に乗っかる、役者に賭け、作者に賭け、そいつに惚れて乗っかるしかないんです。見る側をこっちは向けるには凄いいエネルギーが要る。それでもこれだけはやりた、挑発したいのは時代への苛立ちかもしれない。

今野 「ぼくたちの青春」の決闘のシーン、この番組のプロレスと殴り合いにこだわりがある？

杉田 大学(慶応)空手部の主将で、映像はアクションだと思っています。RUBもLOVEも擦りあうことで熱が生まれる。暴力的にぶつかるのが好きです。ふつうはひとの領域に入らないことをよしとしますが、人間はもつとぶつかって、血が出ないといけない。血が出ないと内出血で長引く。

——会場からの「テーマは？」の質問に「杉田 テーマは私が決めるものではなく、私には何を描くかがテーマでありどう描くかが表現であり思想です。テーマは見る側に考えていただく。」

——会が終わって学生たちとの懇親会が趣向5丁目の居酒屋「木村屋」であり、杉田氏は若い人と喋るのが実に嬉しそうだった。最後に挨拶。

杉田 フジテレビもほかの民放もNHKもみんなトンネルに迷いこみ出口を探していますがいまの人たちには変えられませんが、変えられるのはこれからの人です。みなさん是非テレビ界に入ってきてください。

いろはに時代劇とその格式

菅野高生

時代劇の「イロハのイ」を学んだのが、清左衛門であり藤沢周平さんだとすれば、次に学んだ「ロ」は、はやぶさ新八であり平石弓枝さんである。

92年の初夏、93年度の企画として、「はやぶさ新八御用帳」と「清左衛門残日録」の2本を提出。編成判断で4月放送に清左衛門、9月放送に「はやぶさ新八」となる。

確か「はやぶさ」の原作使用の許諾は、

当時、番組制作局の先輩が電話で許諾を貰って、後日、私は平岩さんに挨拶をしに代々木八幡宮の社務所へ行く。

彼女は60才の還暦で、連載2、3本を抱え、直木賞の選考委員を務める文壇の重鎮。あの戸川幸夫に師事し、長谷川伸主宰の新魔会で採まれ、27歳で直木賞受賞後、石井ふく子のもとテレビドラマの脚本を手がけた。

TBSの「女と味噌汁」や「肝っ玉かあさん」のシリーズを、私が見たのは中学から高校の時である。

つまりは、最初の挨拶は、賞格負けのTKO、一切を話したかの記憶は無く、帰り道八幡宮の森がやけに暗かった……。

清左衛門の最終回は7月9日。約2か月の夏期編成を挟んで、9月3日から「はやぶさ新八」の放送が始まる。「話完結の連続24回」年末年始編成を挟み、最終回は94

年3月25日と決まる。

番組には夏休みがあるが、スタッフは休めない。金曜時代劇2シリーズ38本を、制作演出スタッフを1チーム十人余で凌ぐことになる。しかも演出チーフの村上正二は、大河ドラマの準備があるゆえ、早々にNHKエンタープライズに出向たと言われる。

「ん、一体、いつの大河だ？」よく分からぬまま、清左衛門の最後の演出を5月下旬放送とし、村上を早めに上げる制作スケジュールを組み直し、同期の小松隆に、はやぶさの演出チーフとして、独り先行しての脚本開発を頼む。

なぜか、93年、94年の東京ドラマ部に人がいなかった。93年4月から、金曜時代劇と同時に、「銀河テレビ小説」が4年ぶりに「ドラマ新銀河」の名で復活し、ドラマ枠が二つ一挙に増えたのだ。しかも93年1月から2年間3シリーズのNEP大河「琉球の風」「炎立つ」「花の乱」を作るために、人も、NHKエンタープライズに異動したのだ。

ちなみに、村上の大河は、94年4月放送の「花の乱」であった。

さて、脚本家である。原作があるとは言え、24回を一人では書ききれない、企画書に脚本家の名前を4人並べた。

下川博、井上由美子、大久保昌一良、坂田義和。口の悪い部長に、「菅野ちゃん、脚本家4人も揃えて、ハナから負け戦かい？」とあつさり、からかわれた。イメージとしてはハリウッド方式の分業

での脚本作りだったが、情緒的な日本人には分業は馴染まず、見果てぬ夢となる。

「はやぶさ新八御用帳」は、江戸町奉行直属の家臣・内与力（うちよりき）奉行秘書官・集新八郎が、町方の介人できない武家絡みの事件や、表沙汰に出来ない事件などの探索を上司の奉行・根岸肥前守と共に、いわば特別捜査官ものである。

時は1800年。新八郎は神道無念流の遣い手で頭脳明晰、心優しく好青年だが、恋はオクテである。

雑誌連載の原作は、89年10月と12月長編の第1巻、第2巻が単行本になり、第3巻から一話読み切りとなり、放送開始直前の93年8月に第5巻が出る。短編の原作数は合わせて24話になるが、第1巻の「大奥の恋人」を前後編2回でドラマ化しても、残りの短編が22話分は必要で、原作のストック数としては限界ぎりぎりであり、好みは出来ない状態だった。

そこで、平石弓枝さんと原作の並びを打合せることになるが、その前に、B4の紙一枚を使い、はやぶさの全体構成を考える。縦軸に回数を置き、どんな話を並べるかを記し、横軸に登場人物の欄を作る。

新八郎（高嶋政宏）、お鯉（有森也実）、根岸肥前守（山口志）、小かん（森野目慶子）、鬼勘（宍戸錠）、大久保源太（田中実）、妻の郁江（越智静香）。

全体の流れの中で、各人物の芝居場が何処に来るかを探るためである。ポイント、新八郎とお鯉の秘めた恋を

どう展開するかだと、考えていた。

お鯉は15歳の時から、集家に行儀見習いで奉公する女中である。新八郎の母に家事や行儀作法を仕込まれ、可愛がられていた。だが、新八郎が妻を娶り、妻が実家から女中を連れてきたため、お鯉は身を退き、暇を取って屋敷を出る。二人とも新八郎が結婚して初めて、互いの恋心に気づいて、切ない思いを抱いて行く。

離縁は叶わぬまでも、忍ぶ恋の行方をどうするの？ ヒーロー新八郎はいかなる成長を遂げるのか、原作を並べながら頭を悩ましていた。

ついに、平岩さんがNHKにやって来る。演出チーフの小松と二緒に会う。挨拶もそこそこ、全体構成をもとに新八郎とお鯉の恋の描き方を、練々述べる。こと10分余。平岩さんが優しく、しかし厳かに言う。「菅野ちゃん、時代小説のヒーローは成長しないの！ いい。成長しないの！」

そんな馬鹿な！ 成長しない？ ドラマの入口と出口で登場人物の心情が変わる、変わらなければドラマにならない、変わることを描くのがドラマだと教わってきた。捕物帳や刑事物の連ドラを普段は見てもいないし、NHKではやったことも無かったのだ。

なるほど、言われてみれば、「銭形平次」も「水戸黄門」も、決して成長はしない。平岩さんとの第2ラウンドは、あつさり、KO負けだった。（敬称略）

（つづく）

会員名簿

2015.1.30 現在

【あ】 相本芳彦 青木裕子 秋田完 秋田和典 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 【い】 池田正之 石井彰 石井ふく子 石橋映里 石橋健司 石橋冠 磯智明 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 市川哲夫 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上佳子 井上良介 今井義典 岩澤敏 岩瀬弥永子 【う】 上田洋一 上村忠 浮田周男 碓井広義 臼杵敬子 内山洋道 宇野昭 【え】 江川雄一 江口展之 榎本恒幸 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】 大池雅光 大蔵雄之助 太多亮 太田敬雄 太田昌宏 大西康司 大西文一郎 大野秀樹 大原れいこ 大類啓 岡弘道 岡田晋吉 緒方陽一 岡野真紀子 岡村黎明 小川治 小河原正巳 沖野稜 萩野慶人 尾田晶子 織田晃之祐 【か】 加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤節男 加藤拓 加藤義人 金澤宏次 金沢敏子 金子登起世 金平茂紀 加納孝夫 川平朝清 鎌内啓子 上安平洲子 亀谷弘美 鴨下信一 川喜田尚 川口健一 河邑厚徳 河村正一 【き】 岸田功 北川泰三 北川酒 北川祐美香 北出晃 北林由幸 北村美恵 北村充史 木村成忠 【く】 楠美昌 工藤英博 久保志穂 隈部紀生 倉内均 倉澤治雄 訓覇圭 黒崎博 黒沢淳 【こ】 小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 児玉久男 後藤和晃 小山帥人 近藤一男 近藤邦勝 近藤晋 今野勉 【さ】 斎藤伸久 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 笹山正勝 佐藤敦 佐藤年 佐野有利 澤田隆治 沢田隆三 【し】 重延浩 重村一 重盛政史 静永純一 志津木敬 四宮康雅 柴田昌平 柴田陽一郎 嶋田親一 清水満 志村一隆 下崎寛 下重暁子 白井博 【す】 菅野高至 菅野嘉則 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木俊樹 鈴木典之 鈴木道明 鈴木嘉一 須磨章 【せ】 関佳史 せんぼんよしこ 【そ】 曾根英二 【た】 高島秀之 高田宏 高橋練 鷹森泉 竹中一夫 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中則広 田原茂行 玉城朋彦 【ち】 崔銀姫 【つ】 塚本茂 辻本昌平 土屋敏男 つボイノリオ 露木茂 鶴橋康夫 【て】 寺島高幸 【と】 東城祐司 堂本暁子 戸田桂太 外崎宏司 豊田由紀子 豊原隆太郎 【な】 中尾幸男 中込卓也 中嶋清栄 中島僚 中田美知子 永田浩三 永田俊和 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村英美子 中山和記 並木章 【に】 新村もとを 西憲彦 西村与志木 西ヶ谷秀夫 西川章 仁藤雅夫 二宮文彦 丹羽美之 【の】 信井文夫 【は】 橋本深 林健嗣 林安二 原由美子 原田令嗣 【ひ】 玄武岩 【ふ】 深町幸男 藤井チズ子 藤久ミネ 藤村忠寿 【へ】 逸見京子 【ほ】 星田良子 星野輝一 堀川とんこう 【ま】 前川英樹 牧之瀬恵子 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本修 薫りんたろう 【み】 三上義智 水上毅 水野憲一 南譲 三原治 三村景一 三村千鶴 宮崎洋 宮川謙一 三宅恭次 明神正 【む】 村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】 本木敦子 諸橋毅一 門奈昌彦 【や】 八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山鹿達也 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】 横山英治 吉澤保 吉田賢策 吉永春子 吉村豪介 吉村直樹 【わ】 若松央樹 和崎信哉 渡辺浩平 渡辺絳史

【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟

第39回 名作の舞台裏

坂の上の雲

2009-2011年放送 NHK

日時：2月11日（水・祝日）

午後1時半〜4時半

場所：イイノホール

千代田区内幸町2-1-1

地下鉄「蔵が関」駅「虎の門」内幸

町「駅から

ゲスト：竹下景子（出演）、藤本隆宏（出演）

西村与志木（制作）、柴田岳志（演出）

司会：渡辺絳史（放送人の会）

羊が一匹、羊が二匹 松尾羊一

さるお方の年賀状に「八十路の年男の心境はいかがですか」とやつがれば年間で、去年が年男で来年とは関係ない。羊一のペンネームの由来はどうでも

年すでに暮れんとす也 旅の空 一茶

の心境。年を前に旅を余命に置き換えればまさに馬蹄重なる老いの坂を駆け落ちるような店仕舞いの日々で、不眠の連夜はそれこそ「羊が一匹、二匹」を唱えるも来し方行く末を思いあぐねて不眠の夜が続く。そうか、これが八十路半ばというのか。先人たちもそんな思いを託して以下の戯れ唄の数々を残したわけか。まずは

憂きことも嬉しき折しも過ぎぬれば

ただ明け暮れの夢ばかりなる

と尾形乾山。この人は尾形光琳の表弟で江戸中期の画家にして陶工だが、兄貴ほど華やかではない。晩年は寂しかった。その乾山を老いの感傷と一蹴したのが講釈師の深井志道軒で。

穴を出て穴に入るまで世の中に

トーン頓着せずにはしめ

と詠んで呵呵大笑したという。

しかし老少不定と申して若いのが先立ち、老いたるが残るのが世の習いゆえ、腰を低くして、

世の中は左様しからば「もつとも

そつてさるかしかと存せぬ

などと、世のさまを超然視して悟ったような心境もあれば、石川啄木のように若い

くせに、

それもよしこれもよしとてある人の

その気軽さを敬しくなりたり

と同じような心境を体験する。要する

に「頭張らない余生」か。

寝て起きて暮し夜に住む一人旅

炭太紙

八十翁の心境は太紙に近い。こうしてわたしの2015年の年は明けた。

きのふまで年はせわしく走りしか

明けて日脚ものどかなる春

本年も老骨をよろしく。

編集後記 ▼28ページの大部になりました。

した。原稿をお寄せ下さった方、座談会に

出席の方、協力ありがとうございました。

▼次号は放送人グランプリ下馬評座談会を

掲載、3月13日（金）発行予定です（掲載）